

びわ湖ナレッジ・コモンズ+  
～地と知で拓く 滋賀の創生～

平成27年度 ～令和元年度  
文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+ 事業)」

# 成果報告書

## COC+事業を振り返って

滋賀県立大学は、平成25年度（2013年度）から5年間、「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」に取り組み、また、平成27年度（2015年度）からの5年間には「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」に取り組んできました。

COC+事業は、大学が地方公共団体や産業界・企業等と協働して、魅力ある就職先を創出するとともに、教育カリキュラムを改革して地域が求める人材を養成し、地域の雇用拡大と若者の地元定着を推進することを通じて地方創生の推進を目指すものです。

教育カリキュラム改革は、学生の地元志向の醸成や地元企業と学生との相互理解の促進を図るとともに、地元就職率向上のための新規プログラムの開講、既存の教育プログラムの地元志向深化、中期インターンシップの実施を進めてきました。具体的には、「近江楽士（地域学）副専攻」に「ソーシャル・アントレプレナーコース」を新設するとともに、「MBA入門」、「コミュニティとライフデザイン」、「地域企業講座」の3科目を新たに実施しました。また、COC+参加5大学において、滋賀県立大学の全学必修科目「地域共生論」の共通科目化、「地域コミュニケーション論」の合同科目化、また、学生主体の地域活動「近江楽座」の仕組みの県域波及に取り組みました。

地域の雇用拡大と若者の地元定着を推進する取組としては、県内の企業や仕事への関心を高める教育等の実施、起業に関する実践的な学びの場づくり、大学や学生と企業との交流、アイデアコンテストの実施等に取り組みました。

これらの取組を、県内の6つの大学、滋賀県および県内産業界・企業との協働のもと、近江地域共育委員会を中心として一体的に推進してきたことがCOC+事業の大きな特長です。また、大学本来の使命である「人材養成」を強く意識しながら、本学におけるCOC事業の成果も活用しつつ、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目指し、5年間の短い期間であります学生には地元志向の意識が確実に芽生えてきたと感じています。

COC+事業は、令和元年度（2019年度）をもって終了となりますが、COC+事業を貫徹できたのは、ひとえに、国、滋賀県および事業協働機関をはじめとする多くの皆様の御協力の賜物であり、大学関係者一同心より御礼申し上げます。地域の皆様と共に築き上げてまいりましたCOC+事業の成果（蓄積）をしっかりと引き継ぎながら今後も「地域を共創する自立圏の形成」に尽力することをお約束して、本書発行の御挨拶とさせていただきます。

令和2年3月吉日



滋賀県立大学 理事長・学長

廣川 能嗣

# 目次

|              |      |
|--------------|------|
| COC+事業を振り返って | 1ページ |
|--------------|------|

## 第1章 「COC+事業（びわ湖ナレッジ・コモンズ+ ～地と知で拓く滋賀の創生～）」の概要

|              |      |
|--------------|------|
| 1. COC+事業の概要 | 5ページ |
|--------------|------|

## 第2章 COC+事業の成果・課題と対応

|                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 1. COC+事業の事業目標の達成状況と評価        | 15ページ |
| 2. 教育プログラム改革における取組の事業成果・課題と対応 | 18ページ |
| 3. 地元就職率の向上に係る取組の事業成果・課題と対応   | 20ページ |
| 4. 雇用拡大・雇用創出に係る取組の事業成果・課題と対応  | 22ページ |
| 5. その他の成果                     | 23ページ |
| 6. COC+事業終了後の取組の継続と拡大         | 24ページ |

## 第3章 COC+事業の推進体制

|                |       |
|----------------|-------|
| 1. COC+事業の推進体制 | 26ページ |
|----------------|-------|

## 第4章 教育プログラム改革における取組

|                                   |       |
|-----------------------------------|-------|
| 1. COC+大学（滋賀県立大学）における地域教育プログラムの実施 | 34ページ |
| 2. COC+参加大学における地域教育プログラムの実施       | 40ページ |
| 3. 学生主体の地域活動「近江楽座」の仕組みの県域への波及     | 47ページ |
| 4. 地域教育FD/S D研修の実施                | 54ページ |

## 第5章 地元就職率向上に向けた取組

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 中期インターンシップの実施   | 57ページ |
| 2. 学生と県内企業の相互理解の促進 | 62ページ |

## 第6章 雇用創出・雇用拡大に向けた取組

1. 大学によるアイデアコンテスト・・・・・・・・・・・・・・・・ 68 ページ
2. Startup Weekend 滋賀（滋賀大学）・・・・・・・・・・・・ 74 ページ
3. インバウンド×アントレプレナー講演会・・・・・・・・・・・・ 75 ページ

## 第7章 その他の取組

1. COC+成果報告フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・ 77 ページ
2. 外部評価の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80 ページ

## 第1章

「COC+事業(びわ湖ナレッジ・commons+  
～地と知で拓く滋賀の創生～)」の概要

# 1. COC+事業の概要

## 1. COC+事業と事業推進体制

滋賀県立大学は、平成27年度の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」の公募において、県内5大学、滋賀県、経済団体等との連携による「びわ湖ナレッジ・commons+ ～地と知で拓く滋賀の創生～」を申請し、採択されました。以後、大学が地方公共団体や関係機関と協働し、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を推進し、地方創生につながる取組を進めてきました。

COC+大学（代表校）である滋賀県立大学では、事業の実施にあたり、地域共生センターにCOC+推進室を新設するとともに、学内の地域連携推進本部を事業方針の決定機関として位置づけるなど事業推進体制を構築し、地域が求める人材を養成する教育プログラムの改革や地域の地元就職率の向上・雇用拡大等を積極的に推進してきました。

また、滋賀県立大学のほか、県内5大学、滋賀県、経済団体等の事業協働機関を構成団体とする「近江地域共育委員会」を新たに組織し、その下部組織として「6大学連携部会」「若者定着部会」を設置して、事業目的の達成に向け、この2つの部会を相互に関連させて運営してきました。

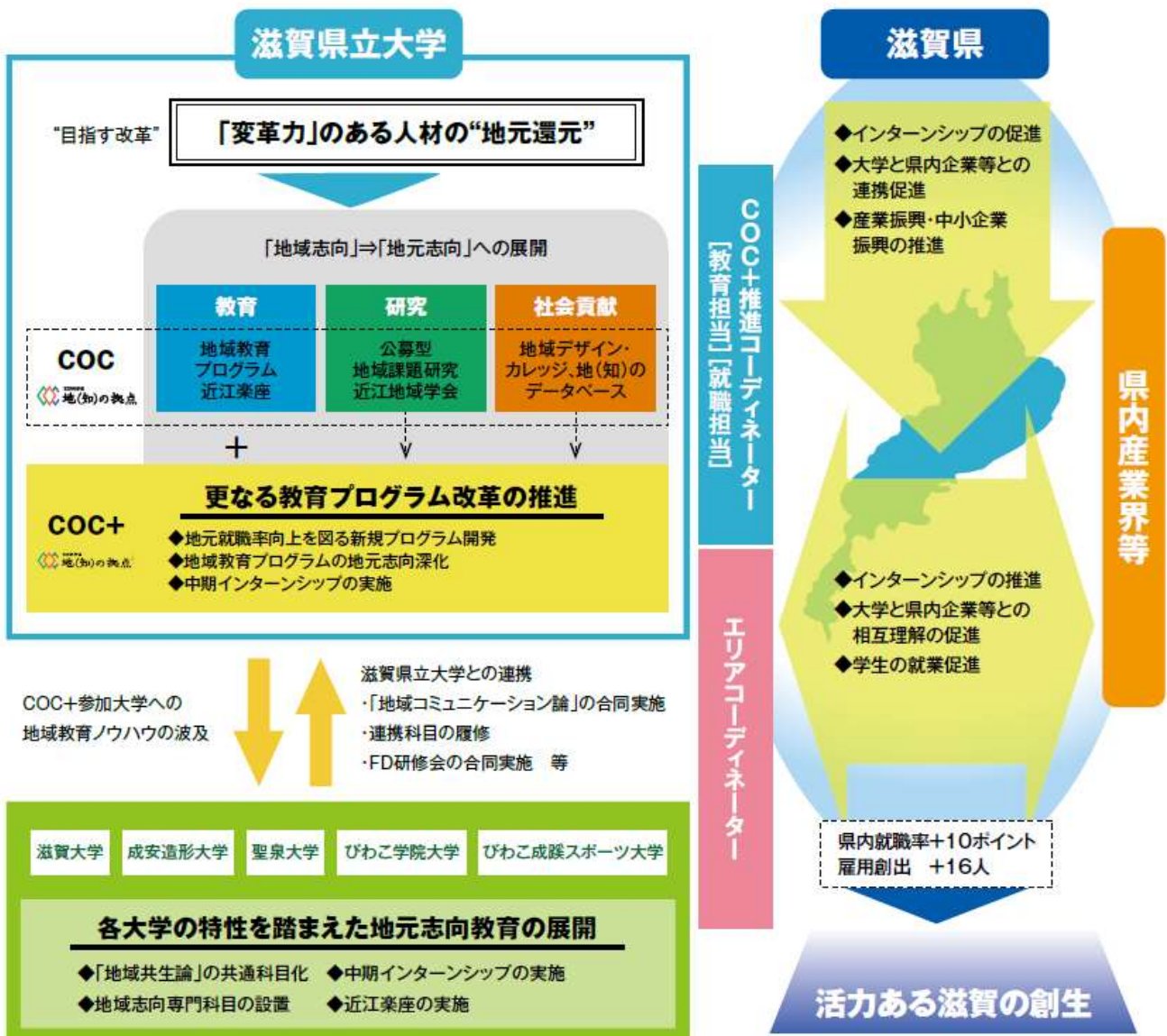
「6大学連携部会」においては、COC+参加5大学との緊密な連携の下、2か月に1回のペースで会議を開催し、地元志向教育の深化・推進など、大学における地域教育プログラムの充実に努めました。また、「若者定着部会」においては、県内6大学の他に滋賀県と経済団体等を構成員に加え、年2回のペースで会議を開催し、県内での雇用創出や県内企業による卒業生の雇用拡大に向けた検討を行い、15日間以上の就業体験を行う中期インターンシップや学生と企業との交流等の就職関連事業を進めるなど、学生・大学側のニーズと企業側のニーズをマッチングさせることに努めました。



事業成果の共有と効果検証という観点では、平成28年度以降継続してCOC+成果報告フォーラムを開催するとともに、学外の評価者による外部評価委員会を設置し、定期的な事業実績の評価を行うことで、事業内容を改善するためのPDCAサイクルを効果的に行ってきました。また、ホームページやフェイスブック等の様々な手段により事業成果の広報・普及に努めてきました。

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」とは

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」は、滋賀県立大学が、県内5大学、滋賀県、経済団体等との協働のもと、「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」の取組成果を活用しつつ、地元志向の教育プログラム改革を進め、地元就職率向上と雇用創出による滋賀の創生に取り組んだものです。事業を推進するにあたり、近江地域共育委員会に若者定着部会と6大学連携部会の2つの部会を設け、効果的な取組を推進することで地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目指しました。



## 2. 教育プログラムの改革

### (1) COC+大学（滋賀県立大学）における教育プログラムの改革

#### ① 「近江楽土（地域学）副専攻」の充実

滋賀県立大学では、COC+事業による教育カリキュラム改革の一環として、平成28年度に「近江楽土（地域学）副専攻」に、「ソーシャル・アントレプレナーコース」を新設しました。

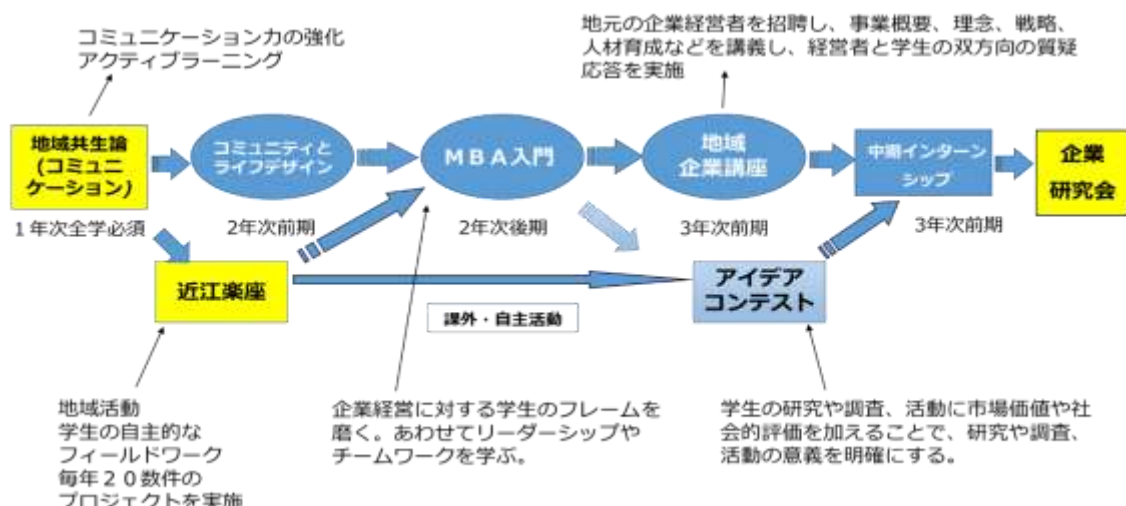
「近江楽土（地域学）副専攻」は、地域基礎科目の履修を通して習得した基礎的な知識・能力を更に向上させて、「コミュニケーション力」「構想力」「実践力」からなる「変革力」を身につけるために、主専攻（各学科）に所属しながら任意に履修することができる全学共通の副専攻課程です。

「近江楽土（地域学）副専攻」には「コミュニティネットワーカー・コース」と「ソーシャル・アントレプレナーコース」の2コースを設置しており、卒業後の進路目標や各人の志向に合わせて、いずれか、あるいは両方のコースを選択することができます。COC+事業により新設された「ソーシャル・アントレプレナーコース」では、ビジネスの発想と手法によって地域課題を解決に導く起業家的人材や起業家精神をもって地元企業等でリーダーシップを発揮する人材の養成を目指しました。また、副専攻の修了要件を満たした学生には、卒業証書・学位記と併せて「近江楽土」の称号が付与されます。

COC+事業を効果的に推進するために滋賀県立大学では、「教育プログラムのサプライチェーンモデル」を構築し、その効果検証を図りました。

これは、地域共生論など地域基礎科目を受講した学生が「ソーシャル・アントレプレナーコース」を受講し、加えて、中期インターンシップ、学生主体の地域活動である「近江楽座」等を経験することで、地元企業の理解を促進するとともに、学生が企業経営に興味をもち、地元定着の可能性を増やす価値創造のモデルです。学生が段階的に地元企業への関心と理解を深め、地元企業を就職の選択肢の一つとする意識の変化を促す目的で構築しました。

#### ○教育プログラムのサプライチェーンモデルのイメージ図





○近江楽士（地域学）副専攻「ソーシャル・アントレプレナーコース」構成科目と年度別の履修登録人数

| 科目名            | H28 | H29 | H30 | R1 |
|----------------|-----|-----|-----|----|
| コミュニティとライフデザイン | 7   | 14  | 11  | 11 |
| MBA入門          | 12  | 6   | 21  | 32 |
| 地域企業講座         | -   | 23  | 11  | 18 |
| 地域デザインC        | 3   | 11  | 3   | 8  |
| 地域デザインD        | -   | 2   | 3   | 1  |

## ② 中期インターンシップの実施

学生が県内企業を理解するとともに、15日間以上の課題解決型の実習ができる中期インターンシップを推進し、平成28年度から令和元年度にかけて滋賀県立大学およびCOC+参加5大学から133人の学生が中期インターンシップに参加しました。また、中期インターンシップの実施にあたり、事業協働機関や地方公共団体、企業と連携し、インターンシップ受入企業を新たに約110社開拓するなど、学生が県内企業を深く知る機会をより多く提供し、その地元定着を促進しました。

## (2) COC+参加5大学における教育プログラムの改革

### ① 地元志向教育科目の充実

COC+参加5大学では、滋賀県立大学におけるCOC事業等のこれまでの地域教育プログラムの成果を取り入れつつ、それぞれが特色ある地元志向教育の改革を展開しました。これらの教育プログラム改革においては、「近江地域共育委員会」に設置された「6大学連携部会」が大きな役割を果たし、十分な大学間連携を図りました。その結果、COC+参加5大学における地元志向教育科目は大幅に増加し、事業成果が確実に県域に波及しました。

例えば、滋賀県立大学の地域基礎科目で必修科目の「地域共生論」のシラバスを一部共有化した科目をCOC+参加5大学全校において実施したほか、地域基礎科目「地域コミュニケーション論」の合同実施や、各校の特色を踏まえた地元志向を強化した科目（キャリア教育科目を含む）を実施しました。



○ COC+参加6大学の地域共生論の履修登録人数の推移

| 大学名                  | H28   | H29   | H30   | R1    |
|----------------------|-------|-------|-------|-------|
| 滋賀県立大学               | 648   | 660   | 630   | 649   |
| 滋賀大学                 | 99    | 552   | 219   | 220   |
| 成安造形大学               | 184   | 226   | 251   | 233   |
| 聖泉大学                 | 42    | 144   | 127   | 123   |
| びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部 | 125   | 118   | 98    | 153   |
| びわこ成蹊スポーツ大学          | 183   | 172   | 165   | 331   |
| 合計                   | 1,281 | 1,872 | 1,490 | 1,709 |

○ 地域コミュニケーション論の履修登録人数の推移

| 大学名    | H28 | H29 | H30 | R1 |
|--------|-----|-----|-----|----|
| 滋賀県立大学 | 46  | 21  | 59  | 42 |
| 滋賀大学   | 1   | 4   | 1   | 5  |
| 成安造形大学 | 2   | 0   | 1   | 1  |
| 聖泉大学   | 13  | 8   | 2   | 4  |
| 合計     | 62  | 33  | 63  | 52 |

② 学生主体の地域活動「近江楽座」の仕組みの県域への波及



滋賀県立大学では、平成16年度より、学生による地域活動「近江楽座」を実施し、地域の再生・活性化に取り組んでいます。これは、学生が自らテーマを設定し、地域の方々と共に取り組む活動であり、これを通じて学生がコミュニケーション力や課題解決力を高め、かつ、滋賀への愛着を深めることで、有為な人材の養成や若者の地元定着を促進するものです。

COC+事業では、COC+参加5大学に滋賀県立大学の「近江楽座」の仕組みを波及させる取組を行いました。各大学ではその特性を踏まえ独自の活動が展開され、令和元年度には、各大学で16のプロジェクトが実施されるなど、滋賀県立大学の事業成果が広く各大学に波及し、学生が、学内だけでは学べない実践的な学びと経験を得られる機会が拡大しました。

○ COC+参加5大学の「近江楽座」参加学生数の推移

| 大学名                  | H28 | H29 | H30 | R1  |
|----------------------|-----|-----|-----|-----|
| 滋賀大学                 | 50  | 70  | 21  | 59  |
| 成安造形大学               | 17  | 23  | 79  | 58  |
| 聖泉大学                 | 0   | 84  | 93  | 76  |
| びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部 | 0   | 51  | 93  | 84  |
| びわこ成蹊スポーツ大学          | 0   | 80  | 85  | 94  |
| 合計                   | 67  | 308 | 371 | 371 |

③ 中期インターンシップやFD/SD研修の一体的な実施

地元企業の理解と若者の地元定着を進めるため、COC+参加6大学は、連携して中期インターンシップを推進したほか、地元志向教育の質的向上を図るため、全大学合同で実施するFD（ファカルティ・ディベロップメント）/SD（スタッフ・ディベロップメント）研修会を、平成28年度から令和元年度にかけて7回開催しました。また、一部参加大学においては、独自にFD研修を実施するなど、事業成果の県域への波及もみられました。



3. 地元就職率の向上・雇用拡大・若者の地元定着に向けた取組

(1) 地元就職率の向上に向けた取組

① 中期インターンシップの実施

前述のとおり、COC+参加6大学において15日間以上の中期インターンシップを推進した結果、平成29年度から令和元年度にかけて133人の学生が中期インターンシップに参加しました。



○ 中期インターンシップ参加者数の推移

| 大学名         | H28 | H29 | H30 | R1 | 合計  |
|-------------|-----|-----|-----|----|-----|
| 滋賀県立大学      | 1   | 11  | 8   | 3  | 23  |
| 滋賀大学        | 33  | 7   | 21  | 23 | 84  |
| 成安造形大学      | 0   | 2   | 0   | 2  | 4   |
| 聖泉大学        | 0   | 3   | 0   | 0  | 3   |
| びわこ成蹊スポーツ大学 | 0   | 1   | 9   | 9  | 19  |
| 合計          | 34  | 24  | 38  | 37 | 133 |

② 学生と地元企業の相互理解の促進

○ しが就活塾1dayワークショップ

平成28年度から令和元年度にかけて、毎年度、事業協働機関である滋賀県中小企業団体中央会等との共催による「しが就活塾1dayワークショップ」を開催し、学生が就職活動を始める前に県内業界・企業の魅力に触れる機会を創出しました。参加学生からは「県内の企業を知る機会があり、ありがたい。」、「滋賀県内の企業についてより詳細な情報が知りたい。」などの意見が寄せられるなど、企業と学生の貴重な交流につながりました。



○ 関係機関との連携

関係機関との連携としては、彦根地区雇用対策協議会と共催で、企業の人事担当者とCOC+大学等の就職支援担当教職員が意見交換をする場を設け、就職支援・求人对策の両面で現状と課題を共通認識するとともに、一層の相互連携を深める情報交換会を平成29年度から継続して実施しました。参加した企業の関係者からは、学生と大学側の実情がよく分かったとの声を多く聞けました。その他にも、複数の市町等が主催する合同就職説明会等への共催・協力という形で取り組みました。



○ ジョブ交座（こうざ）

滋賀県立大学では、地元企業等の魅力を早い時期から学生に発信することを目的として、地元企業等が昼休みに大学の学生食堂前スペースにブースを出

展し、特に若手の大学OB・OGが積極的に自社やその職務内容等をPRする「ジョブ交座」を、計8回開催し、2年間で30社がブースを出展、延べ431人の学生が参加しました。

#### ○ 地元企業と女子大学生のマッチング

女子大学生の地元企業への定着を促進する取組としては、平成28年度に「地元企業と女子大学生のマッチング事業」を大津市と協働で実施しました。成安造形大学およびびわこ成蹊スポーツ大学の女子学生42人と大津市内の企業19社の経営者等が交流会に参加し、学生からは「地元企業の良さを再認識できた」などの感想が寄せられました。

#### ○ 業界研究会・企業研究会における県内企業のPR

滋賀県立大学で開催した業界研究会、企業研究会に、滋賀県に本社を有する企業のブース出展を積極的に呼びかけ、学生と県内企業との交流機会の拡大を図りました。

### (2) 雇用拡大・雇用創出に向けた取組

#### ① 大学によるアイデアコンテスト



大学生が、地域課題をビジネス的な手法で解決するビジネスプランを表彰する「大学によるアイデアコンテスト」を滋賀中央信用金庫との共催（令和元年度は湖東信用金庫も共催参加）により、平成28年度から4年間に亘って実施しました。

平成29年度には、対象校の範囲を滋賀県立大学だけでなくCO

C+参加5大学まで拡大し、また、令和元年度には、対象校を更に環びわ湖大学・地域コンソーシアム加盟の県内13大学にまで拡大し、4年間で計46のアイデアプラン/ビジネスプランが寄せられました。

アイデアプラン/ビジネスプランの作成にあたり、一部のCOC+参加大学では、学内プレコンテストの実施や、ゼミや研究室における学生の研究テーマと位置づけて本コンテストに取り組むなど、教育面でも各校の特長を生かした多様な参画がみられました。

このほか、滋賀大学では、平成28年度および平成29年度に地域活性化をテーマに新たな商品やサービスを考える「Startup Weekend 滋賀」を行い、学生の起業マインドを養成しました。

○ 大学によるアイデアコンテストの開催概要

| 年度  | 参加大学・団体数   | グランプリ受賞テーマ（大学名）                       |
|-----|------------|---------------------------------------|
| H28 | 1 大学・10 団体 | 「『おきしま湖散歩』～沖島を淡水湖ダイビングのメッカに～」（滋賀県立大学） |
| H29 | 6 大学・12 団体 | 「お宝まちなみ、河五八（かごやん）」（びわこ学院大学短期大学部）      |
| H30 | 6 大学・12 団体 | 「新可視光応答光触媒の開発」（滋賀県立大学）                |
| R1  | 6 大学・11 団体 | 「めしませ、近江の姫むすび」（びわこ学院大学短期大学部）          |



② 学生の起業マインドの醸成

平成 28 年度には、事業協働機関傘下の彦根商工会議所との連携により「インバウンド×アントレプレナー講演会」を開催し、学生の起業や新規事業の立ち上げに向けた機運の醸成を図りました。参加した学生が後に「大学によるアイデアコンテスト」にビジネスプランを応募するなど、学生のアントレプレナー精神を大いに刺激する講演内容でした。この他、滋賀県立大学の近江楽土（地域学）副専攻「ソーシャル・アントレプレナーコース」でのビジネスシミュレーションや県内企業関係者等を講師に迎えた実践的な教育を行うことで、学生の地元志向を強め、“起業”を行う力を養成しました。





## 第2章

# COC+事業の成果・課題と対応

# 1. COC + 事業の事業目標の達成状況と評価

## (1) 数値（定量）目標の達成状況

COC+事業の事業目標と実績は、以下のとおりです。（令和2年3月現在）

|                         | H26   | H27   |       | H28   |       | H29   |       |
|-------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                         | 実績    | 目標    | 実績    | 目標    | 実績    | 目標    | 実績    |
| ①地元就職率                  | 29.8% | 30.8% | 30.1% | 32.8% | 29.5% | 34.8% | 29.6% |
| うち滋賀県立大学                | 28.9% | 30.9% | 22.8% | 32.9% | 28.3% | 34.9% | 29.8% |
| ②事業協働機関への中期インターンシップ参加者数 | 0人    | -     | -     | 25人   | 34人   | 25人   | 24人   |
| うち滋賀県立大学                | 0人    | -     | -     | 10人   | 1人    | 10人   | 11人   |
| ③事業協働機関からの寄附講座数         | 1講座   | 1講座   | 1講座   | 1講座   | 1講座   | 1講座   | 1講座   |
| うち滋賀県立大学                | 1講座   | 1講座   | 1講座   | 1講座   | 1講座   | 1講座   | 1講座   |
| ④事業協働機関雇用創出数            | 0人    | -     | -     | 4人    | 0人    | 4人    | 4人    |
| ⑤大学以外の事業協働機関による事業への満足度  | -     | -     | -     | 66.7% | 100%  | 77.8% | 100%  |

|                         | H30   |       | R1    |     |
|-------------------------|-------|-------|-------|-----|
|                         | 目標    | 実績    | 目標    | 実績  |
| ①地元就職率                  | 36.8% | 30.4% | 39.8% | ※   |
| うち滋賀県立大学                | 36.9% | 30.3% | 38.9% | ※   |
| ②事業協働機関への中期インターンシップ参加者数 | 37人   | 38人   | 50人   | 37人 |
| うち滋賀県立大学                | 15人   | 8人    | 20人   | 3人  |
| ③事業協働機関からの寄附講座数         | 2講座   | 1講座   | 2講座   | 1講座 |
| うち滋賀県立大学                | 2講座   | 1講座   | 2講座   | 1講座 |
| ④事業協働機関雇用創出数            | 4人    | 4人    | 4人    | ※   |
| ⑤大学以外の事業協働機関による事業への満足度  | 88.9% | 100%  | 100%  | ※   |

※・・・令和2年5月頃に取りまとめ予定



## ① 地元就職率

### ✓ 事業目標の設定

令和元年度の滋賀県立大学およびCOC+参加5大学の卒業生の地元就職率を39.8%に向上させることを事業目標に設定しました。この目標値は、事業開始前年度の平成26年度の就職率29.8%に10ポイントを加えたものです。

### ✓ 事業目標の達成状況

昨今のいわゆる学生優位の「売り手市場」が継続し、県外の大企業等の採用活動がより早期化・活発化している流れを受けて、県外企業への就職が進んだことにより、目標の地元就職率を達成することはできませんでした。しかし、平成30年度のCOC+参加6大学合計の就職率30.4%および滋賀県立大学の就職率30.3%はいずれもCOC+事業の開始以来の最高値を記録しています。また、滋賀県内の全ての大学の卒業生の地元就職率は、平成28年度19.5%、平成29年度18.9%、平成30年度18.3%と年々減少している一方で、COC+参加6大学の地元就職率は増加していることから、COC+事業において実施してきた地元志向教育および若者の地元定着に向けた取組の効果が一定表れているものと考えます。

## ② 事業協働機関への中期インターンシップ参加者数

### ✓ 事業目標の設定

COC+事業では、学生の地元企業の理解の促進や学生と企業の出会いの場を創出するため、中期インターンシップを特に力を入れて推進しました。令和元年度に50人という目標値は、関係校における過去のインターンシップの実施状況を勘案し、滋賀県立大学で20人、その他のCOC+参加5大学で1校当たり6人、50人が令和元年度に中期インターンシップに参加することを目指して設定したものです。

### ✓ 事業目標の達成状況

COC+事業で受入企業の開拓・確保に努めるとともに、学生に対する説明会や個別指導等を行って中期インターンシップを推進した結果、平成28年度から令和元年度までに133人の学生が中期インターンシップに参加しました。これは、この期間の目標人数の累計(137人)とほぼ同数の実績です。あわせて、インターンシップ後の報告会では、参加学生によるインターンシップ体験の発表、学生・受入企業・大学担当者の三者によるふりかえりと今後のインターンシップの充実に向けた話し合いを実施し、この事業の意義・効果等を共有するとともに、実施報告書を作成し関係機関等に配布しました。

### ③ 事業協働機関からの寄附講座数

#### ✓ 事業目標の設定

滋賀県立大学では、平成 19 年度より日本電気硝子株式会社の寄附による寄附講座を実施していますが、COC+事業により経済団体をはじめとする事業協働機関との連携を深めることにより、更にもう 1 件寄附講座を創出することを事業目標としました。

#### ✓ 事業目標の達成状況

事業期間中に新たな寄附講座の獲得はありませんでしたが、寄附講座に類する成果として、令和元年度に、彦根商工会議所の寄附による世界遺産に関する寄附講義を、滋賀県立大学および滋賀大学において実施することができました。これらの寄附講義は令和 4 年度まで実施される予定で、地元の文化遺産の保存活用やそれを活用したまちづくりにおいて活躍する人材の養成が期待されます。

### ④ 事業協働機関雇用創出数

#### ✓ 事業目標の設定

COC+事業において地元就職率を 10 ポイント向上させるために必要な人数（約 160 人）の 1 割に相当する人数 16 人を事業協働機関による新規雇用創出人数の目標値とし、毎年度 4 人ずつの新規雇用を創出することを目指しました。

#### ✓ 事業目標の達成状況

平成 30 年度までに新規雇用 8 人を創出することができました（期間目標値 12 人）。これは事業協働機関の創業・第二創業に係る支援実績のある企業への就職件数を計上したものであり、事業協働機関との緊密な連携により取組を行った結果と認識しています。

### ⑤ 大学以外の事業協働機関による事業への満足度

#### ✓ 事業目標の設定

事業が順調に進捗した場合の事業協働機関の事業への満足度は 100%となることが当然と考えられることから、最終年度の事業満足度を 100%と設定しました。

#### ✓ 事業目標の達成状況

事業満足度は、15 の事業協働機関に対するアンケート調査（大学を除く）により測定しました。平成 28 年度から 30 年度までの事業満足度はいずれも 100%となっています。これは「近江地域共育委員会」の各部会等において、関係機関と緊密な連携を図りつつ実効性のある取組を行った結果と認識しています。

## 2. 教育プログラム改革における取組の事業成果・課題と対応

### (1) 教育プログラム改革の主な成果

- COC+事業により、質・量共に充実した地元志向教育プログラムを学生に提供することが可能となり、目指す人材像である「未来志向の変革力を身につけた人材」の養成に向けて必要とされる能力を体系的に習得する教育カリキュラムを構築することができました。学生がネットワーク力や起業家精神を身につけ、俯瞰的に物事をみる能力はもちろんのこと、自らの地域について深く学び、現実起こっている諸問題に新たな視点で取り組み、変革する能力と態度を養成することができました。
- COC+参加6大学が緊密な連携を図り、そのネットワークを生かし、滋賀県立大学の地元志向教育プログラムの成果を取り入れつつ、それぞれ特色ある地元志向教育を展開することで、教育プログラムの質的・量的向上が県域に波及しました。また、学内外における実践的な学びと経験を得られる貴重な機会が拡大しました。
- COC+参加5大学で実施した「地域共生論」においては、学生が学びの幅を広め、自分の興味からより専門的な学びへとつながられる機会を提供することができました。また、学生の学外への関心が高まり、地域課題に触れる機会も増えたことで、地域のボランティアグループに参加したり、自ら地域でプロジェクトを立ち上げたりする事例がみられました。
- 滋賀県立大学に新設した近江楽士（地域学）副専攻ソーシャル・アントレプレナーコースでは、平成30年度に3人、令和元年度に5人の修了生を輩出しました。この8人は、大学院に進学あるいは進学予定の2人を除き、6人が県内企業あるいは県内地方公共団体に就職しています。COC+事業では、地域基礎科目や副専攻科目、中期インターンシップ等を有機的に組み合わせた教育機会を学生に提供することにより、学生が段階的に地元企業への関心と理解を深め、地元企業を就職の選択肢の一つとする学生を多く輩出することができるとする「教育プログラムのサプライチェーンモデル」（2ページ参照）を検証してきましたが、この有効性を確認することができました。
- COC+事業を契機として、企業経営者や企業活動の現場で活躍する卒業生等の外部講師を積極的に授業に招聘することができました。これにより、学生が普段の生活の中で地域企業を理解するとともに、実際に企業経営者等との対話を通して顔の見えるつながりを形成することができました。学生の地元への定着が進まない大きな要因として、地元定着を望む学生も含め、多くの学生に対して地元の優れた企業の情報が届いていないということが挙げられます。授業をはじめ日常の大学生活の中で学生が企業やその経営者・従業員と出会うことは、地元企業に関する情報の非対称ともいえる状況を改善し、学生に将来の職業に関する幅広い選択肢を提供することにつながります。あわせて、今後ますます重要になる社会人対象のリカレント教育や実務家教員の積極的活用への社会の要請に応え、その充実を図るうえでも大変重要な成果が得られたと考えます。

- ・「近江楽座」をCOC+参加5大学で実施したことで、地元志向教育の深化や学内だけでは学べない実践的な学びと経験を得られる貴重な機会が拡大しました。地域共生論と「近江楽座」での学生主体の地域活動支援をきっかけに地域に関心を持ち、実際に活動する学生が年々増加した大学もみられます。また、大学間で「近江楽座」の活動内容を情報交換する交流会を実施した結果、参加校同士の横のつながりが生まれました。活動エリアやテーマを同じくする学生同士によるそれぞれの専門や特性を生かした大学を超えた連携が促されるだけでなく、学生グループ同士が互いに競ってレベルアップを図ろうとする動機付けになるなど複数大学で取り組むメリットを生かすことができました。
- ・滋賀県立大学においては、地元志向教育プログラムにおけるアクティブ・ラーニングが充実し、平成30年度以降アクティブ・ラーニング室が2部屋新設されるなど、教育環境の改善がみられました。
- ・FD/SD研修では、滋賀県立大学およびCOC+参加5大学の教職員が、「伝えるスキル」を実践的に学ぶアクティブ・ラーニングを体験することで、教授法に関するノウハウを参加大学間で広く共有することができました。

## (2) 教育プログラム改革の課題と対応

- ・滋賀県立大学において取り組んだ近江楽士（地域学）副専攻（ソーシャル・アントレプレナーコース）の称号授与者は、平成30年度が3人、令和元年度が5人と少数にとどまりました。意欲ある「少数精鋭」の養成を念頭に設置された副専攻プログラムを基盤とする教育プログラムの改革であり、改革導入期の結果としてはある程度想定されたことですが、教育手法や内容が確立し、ロールモデルとなる修了生が輩出されたことから、今後、これまでの成果や修了生の活躍状況を積極的に発信・紹介することで、履修者および称号授与者の増加を図ります。一方で、前述のとおり、ソーシャル・アントレプレナーコースの修了生の地元就職率は、大学院進学を除くと全てが地元就職と極めて高く（8人中6人）、「教育のサプライチェーンモデル」の効果を十分に検証することができました。COC+参加各校では、COC+事業で取り組んできた事業を、原則継続することとしており、若者の地元定着を引き続き推進する効果が期待されます。
- ・COC+参加大学において取り組んだ、地域共生論の共通科目化、地域コミュニケーション論の合同実施、「近江楽座」の仕組みの県域波及による地元志向の深化については、その定量的な成果を十分に把握するには至りませんでした。定性的な成果としては、地域共生論を導入した参加大学において、同科目でのフィールドワークを通じて地元鉄道事業者の課題を把握した学生がクラウドファンディングの仕組みを生かした支援事業を実施し成果を収めるに至った例がありました。「近江楽座」の県域波及に関しては、既述のとおり大学の壁を超えた連携が促されるだけでなく互いに成果を競い合い学生として活動としての能力を高め合う動機を提供しています。地域コミュニケーション論においては、授業を通じた地域人・企業人との交流をきっかけとして、地域人・企業人とともにイベントを企画・運営するに至

った事例があります。これまでの取組の蓄積をもとに、成果の出たものについても出なかったものについてもその要因を分析してさらなる改革・改善につなげます。また、地元志向の深化をどのような指標でどれだけの期間にわたって測り、評価するかといったことについては、その考え方・手法ともに研究・開発のテーマとなるものであり、これまでの取組に係る各種のデータや今後の追跡調査の結果をもとにして、共通科目化・合同化に関わった教員による研究・開発を促していきます。

### 3. 地元就職率の向上に係る取組の事業成果・課題と対応

#### (1) 地元就職率の向上に係る取組の主な成果

- ・昨今のいわゆる学生優位の「売り手市場」が進み、県外企業等への就職が進んだことを受けて地元就職率は目標値を達成することができませんでした。しかし、在学生を対象としたアンケート調査では、COC+事業の取組について「自分の視野を広げるのに有効な授業だと思った。」「授業を通じて、将来の就職活動の物差しを手に入れると同時に地元就職に関する考え方が変わった。」等の回答が寄せられるなど、事業効果を確認することができました。
- ・中期インターンシップに参加した学生の満足度は高く、在学中に就業体験できる機会を与えられたことで、職場の方々と仕事や就職についての貴重なコミュニケーションを図ることができました。受入企業からも、学生の意欲的・積極的な姿勢を高く評価していただいています。
- ・中期インターンシップは、学生の能力開発はもちろん、受入企業の意識改革にも貢献していることが企業へのアンケート結果から確認できました。また、外部評価委員会においても「学生・企業の双方が互いに発展する仕組みが既につくられており、今後とも堅持していくことが望ましい」との評価をいただきました。滋賀県立大学で開拓した地元の優良な企業情報をCOC+参加5大学と共有することで、これまでつながっていなかった大学と地元企業との接点づくりにも貢献できました。
- ・滋賀県立大学およびCOC+参加5大学のそれぞれにおいて、多様なアプローチによる学生と企業の交流を促進する事業を進めた結果、両者を結ぶ機会が増大し、地元就職の推進に向けた機運の醸成がなされました。
- ・滋賀県立大学では、新たな試みとして学生と企業関係者がランチタイムに食堂前で気軽に交流する「ジョブ交座」を実施し、8回の「ジョブ交座」に延べ431人の学生が参加しました。これにより、早い時期から学生が県内の優良企業について知るとともに、卒業生等などの若手社員との本音トークを通じて、自身のキャリアの選択肢を広げるきっかけを創出することができました。

- 様々な教育プログラムや就職関連事業の実施を通じて、学生が就職の選択肢として、「地元で働く」ことを考えるきっかけとなり、実際に地域への就職につながる効果がみられ始めています。
- 以上のとおり、地元就職率向上に向けた様々な事業を通じて、各大学と地元企業の「結びつき」が以前よりも強固になったことが大きな成果です。大学は地元企業の情報を収集できる一方、大学（学生）の実情を企業に伝えることで、双方の情報・認識の「ズレ」を埋めることにもつながりました。このことは、就職のミスマッチ防止に寄与できていると考えます。また、地元就職率向上のために欠かせない連携・協働機関である市町（地区雇用対策協議会等を含む）との「結びつき」も強くなり、暮らしの充実を含めた地元就職選択への理解を進める環境を整えることができました。

## （２）地元就職率の向上に係る取組の課題と対応

- 教育プログラム改革と就職関連事業を通じて学生の地元志向意識の向上に取り組みましたが、学生の間には広がる大企業志向・都会志向を十分に転換させるには至りませんでした。小規模ながらも魅力ある地元企業への就職を通じて、大企業では得られない自らの自己実現や働きがいを見出すことができるという意識が少しずつではあるが確実に生まれてきているものと考えられます。
- 近江地域共有委員会や若者定着部会など地元経済団体・企業経営者と大学・教職員とが協議する機会には、地元定着の人数や定着率といった事業目標の達成に関して盛んに議論しました。こうした機会を通じて地元経済団体との間に対話関係が確立できました。今後は、この関係を生かして、就職人数や定着率だけでなく、来るべき時代を見据えて地元滋賀においてどのような人材が必要であるか、あるいは、学ぶことと働くことのモデルをいかに地域において構築するかといった、より根源的・本質的な事柄についても積極的に議論をすることが必要と考えます。
- 学生優位の「売り手市場」が継続する中、地元就職率を高めることはなかなか難しい課題ですが、今後は、人生 100 年時代の質の高い生き方を見据えて、学生一人ひとりが地元就職への選択の幅を広げられるような取組を継続的に進めていくことが大切であると考えます。
- 今後もCOC+事業を通じて強まった大学・学生と企業・地方公共団体等の「結びつき」を土台にして、地域を支える人材、地元のために頑張ろうという意欲をもった人材の輩出に取り組めます。

## 4. 雇用拡大・雇用創出に係る取組の事業成果・課題と対応

### (1) 雇用拡大・雇用創出に係る取組の主な成果

- ・COC+事業を契機として、学生の起業を支援する制度の整備が進み、滋賀県立大学と滋賀大学においては、「大学発ベンチャー認定制度」が設立され、滋賀大学では、平成30年度に第1号企業が認定されました。
- ・COC+参加6大学、滋賀中央信用金庫・湖東信用金庫との共催による「大学によるアイデアコンテスト」や滋賀大学の起業体験イベント「Startup Weekend 滋賀」を実施することで、学生の起業マインドを醸成し、教育面での効果もあげることができました。
- ・アイデアコンテストでグランプリを受賞したアイデアについては、事業化に向けた学生、大学、関係機関との協議が進んでおり、更なる大学発ベンチャー企業の誕生、養成につながっていくことが期待されます。
- ・近江楽土（地域学）副専攻「ソーシャル・アントレプレナーコース」でのビジネスシミュレーションや県内企業関係者等を講師に迎えた実践的な教育を行うことで、学生の雇用拡大・雇用創出に向けた意識が高まっていることが学生アンケートにより確認することができました。

### (2) 雇用拡大・雇用創出に係る取組の課題および今後の対応

- ・「大学によるアイデアコンテスト」や教育プログラムの改革を通じて学生の起業・創業に係る意識の向上に取り組みましたが、学生が、卒業後すぐに起業・創業を行うことは財務面における様々なリスクを伴うものであり成果を上げることができませんでした。また、新規雇用創出数についても事業目標を達成することができませんでした。
- ・このように、短期的に成果を上げることは難しい状況ではありますが、アイデアコンテストにおいて学内プレゼンテーションを実施した参加大学からは、参加学生の多くに著しい人間的・精神的な成長がみられたとの効果が報告されています。今後もCOC+6大学から環びわ湖大学・地域コンソーシアム加盟の県内13大学に拡大した枠組みで、雇用拡大・雇用創出に向けて、学内での環境整備と学外の関係機関等との連携を進めていきます。

## 5. その他の成果

---

- COC+参加6大学、滋賀県、経済団体等を構成員とする「近江地域共育委員会」を組織し、地元就職率の向上や県内での新規雇用創出に向けた議論や連携を行うことで、それぞれの強みを生かしながら多角的な視野に立ち、効果的に中期インターンシップ、業界・企業研究会、学生と企業との交流等を実施することができました。
- 滋賀県、経済団体等との産学官連携ネットワークの拡大や、若者の地元定着に向けて、様々な資源・施策を動員する取組は、COC+事業の実施以前にはなかった動きであり、大学の貴重な財産となりました。特に、COC+参加6大学と地元企業の「結びつき」が以前よりも強固になったことが大きな成果です。COC+事業が目指す地域全体で地方創生に取り組む機運の醸成にもつながりました。
- COC+事業の積極的な情報発信の成果として、滋賀中央信用金庫、関西みらい銀行（旧関西アーバン銀行）や滋賀銀行といった金融機関から、事業連携に係る提案が寄せられ、平成29年度に新たに6つの金融機関（滋賀銀行、関西みらい銀行、滋賀中央信用金庫、湖東信用金庫、長浜信用金庫、滋賀県信用組合）が事業協働機関に加わるなど、効果的な取組の実施に向けて共同体制の拡充を図ることができました。
- 卒業生や県内企業へのインタビュー調査により、地方創生に資する地域教育プログラムの推進や地域で学び、地域で働く人材のロールモデルの構築につながる情報を入手することができました。



## 6. COC+事業終了後の取組の継続と拡大

令和元年度をもってCOC+事業は終了しますが、今後もこの事業で得られた成果を確実に継承するとともに、COC+6大学だけでなく県内13大学にも取組を拡充し、学生の地元志向や地元就職率の向上を通じて地方創生につながるよう、次のように取組を進めます。

### (1) COC+6大学共同取組について

**<継続> 以下の事業は、各大学で継続します。**

- ・地域共生論の共通科目化
- ・「近江楽座」の仕組みの県内波及
- ・FD/SD研修
- ・中期インターンシップ
- ・大学・学生と企業との交流

**<拡充> COC+の枠組み（6大学）を環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組み（13大学）に拡大して実施します。**

- ・大学によるアイデアコンテスト（令和元年度から対象大学を県内13大学に拡大済）
- ・地域コミュニケーション論の合同科目化（単位互換科目）

**<廃止>**

- ・COC+成果報告フォーラム

### (2) 滋賀県立大学の独自プログラムについて

- ・教育プログラム（近江楽士（地域学）副専攻ソーシャル・アントレプレナーコース等）については、受講した学生に地元志向意識の醸成がみられるなどの効果が認められることから、可能な範囲で取組を継続します。
- ・就職支援プログラム（ジョブ交座等）については、既存事業に組み込んで継続します。

### (3) 事業協働機関の連携・情報共有について

- ・来年度以降、「6大学連携部会」および「若者定着部会」に代わって、これら部会の構成団体の担当者を構成員とする「連携・情報共有の場」を年1回程度設け、地元志向教育や地元就職推進等に関して必要な意見交換や情報共有を行います。

### (4) COC+6大学以外の大学への取組の拡大

- ・COC+事業の成果を環びわ湖大学・地域コンソーシアム構成大学で共有・活用するため、同コンソーシアムの会議の場においてCOC+の事業成果を説明する機会を設けるとともに、COC+6大学以外の県内大学に対し事業連携を働きかけます。



# 第3章

## COC+事業の推進体制

# 1. COC + 事業の推進体制

## (1) 滋賀県立大学における事業推進体制

### ① 地域連携推進本部

滋賀県立大学では、学内での事業方針の決定機関として地域連携推進本部を、また、実際に事業を担当する組織として、地域共生センターにCOC+推進室を設置し、地域が求める人材を養成するための教育プログラムの改革や若者の地元定着を積極的に推進しました。

地域連携推進本部は、滋賀県立大学理事長（学長）、副理事長、理事、各学部長を構成員とする合議体であり、学長のリーダーシップに基づく機動的な推進体制を構築しました。

### ② COC + 推進室

滋賀県立大学地域共生センターCOC+推進室は、地域連携担当理事が室長を兼ね、COC+事業を統括するほか、COC+推進コーディネーターとして、教育担当1人および就職担当1人を配置し、教育プログラム改革や若者の地元定着のための活動を行いました。あわせて、エリア・コーディネーター2人を配置し、COC+参加5大学や事業協働機関、企業等との連携を図りつつ関連事業を実施しました。

COC+推進コーディネーター（教育担当）は、主として大学間連携による教育プログラム改革の推進を担い、COC+参加5大学の関係教員と連携した教育プログラムの改革、参加校間の連絡調整、事業のフォローアップに従事するほか、近江楽土（地域学）副専攻の一部科目や「大学によるアイデアコンテスト」の実施を担当しました。また、関係教員と連絡を取り合いながら参加校間の地元志向教育の水準を検証し、合同FD研修会の企画・検討・実施等に取り組みました。

COC+推進コーディネーター（就職担当）は、主として地域・企業との連携による学生の地元定着の推進を担い、中期インターンシップ協力企業の開拓、インターンシップ実施に係る連絡・調整やマッチング、フォローアップに従事するほか、「近江地域共育委員会」、「若者定着部会」、「6大学連携部会」の運営のほか、COC+事業終了後のあり方検討などに従事しました。

また、COC+推進コーディネーターを補佐するためエリア・コーディネーターを2人配置し、COC+推進コーディネーターとの緊密な連携のもと、各地域における大学や中期インターンシップ企業等に対するきめ細かなフォローアップや学生の指導を行い、COC+参加校における地元志向教育の推進および学生と県内企業との相互理解やインターンシップの推進、充実に向けた取組を行いました。

さらに、COC+推進室に事務補助員2人を配置し、関係教職員等が円滑に活動できる環境を整えたことにより、COC+参加6大学における地元志向教育の推進および他の事業協働機関との十分な連携関係のもと、円滑な事業実施が図られました。

このほか、滋賀県立大学地域連携・研究支援課および学生・就職支援課を中心に大学事務局がCOC+推進室をサポートする体制を構築しました。

## (2) 事業協働機関

COC+事業では、滋賀県の未来を担う人材を育成し、その地域での活躍を支援するため、県内他大学だけではなく、地方公共団体や経済団体、企業等が協働し、それぞれの立場から取組を進めることとし、以下の機関を事業協働機関として、連携体制を構築しました。

### ○事業協働機関一覧

#### <大学>

- ① 滋賀大学
- ② 成安造形大学
- ③ 聖泉大学
- ④ びわこ学院大学・短期大学部
- ⑤ びわこ成蹊スポーツ大学

#### <地方公共団体>

- ① 滋賀県

#### <経済団体等>

- ① 滋賀県商工会議所連合会
- ② 滋賀県商工会連合会
- ③ 滋賀県中小企業団体中央会
- ④ 滋賀経済同友会
- ⑤ (一社) 滋賀経済産業協会
- ⑥ (公社) びわこビジターズビューロー
- ⑦ 滋賀県中小企業家同友会
- ⑧ (公財) 滋賀県産業支援プラザ

#### <企業(金融機関)>

- ① 株式会社滋賀銀行
- ② 株式会社関西みらい銀行(旧関西アーバン銀行)
- ③ 滋賀中央信用金庫
- ④ 湖東信用金庫
- ⑤ 長浜信用金庫
- ⑥ 滋賀県信用組合

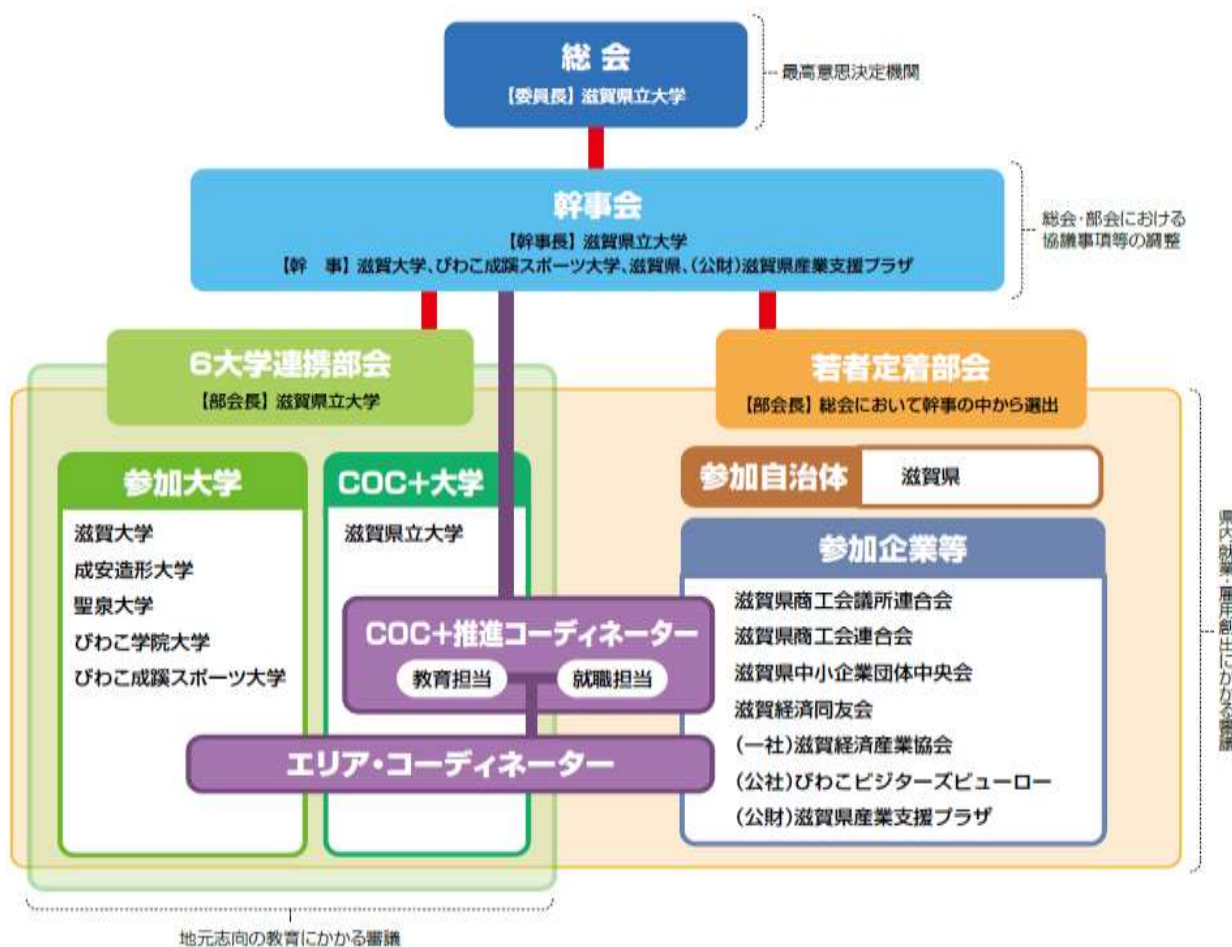
## (3) 近江地域共育委員会

COC+事業の効果的な実施や目標達成に向けた協議を行うため、事業協働機関の14機関を構成員とする「近江地域共育委員会」を設置し、「6大学連携部会」および「若者定着部会」の2つの部会をその下部組織として設置しました。

「6大学連携部会」では、教育カリキュラム改革として、滋賀県立大学の全学必修科目「地域共生論」の共通科目化、「地域コミュニケーション論」の合同科目化、中期インターンシップの実施、学生主体の地域活動「近江楽座」の仕組みの県域波及等に取り組みました。

「若者定着部会」では、県内での雇用創出や県内企業による卒業生の雇用拡大に向けた検討を行い、中期インターンシップや企業研究会、学生と企業との交流会等の就職関連事業等の取組を進めるなど、学生・大学側のニーズと企業側のニーズとをマッチングする事業を展開しました。

近江地域共育委員会の事務局は、COC+推進コーディネーターが総括し、これを中心として各事業協働機関が相互連携を深め、大学が地方公共団体や企業等と協働し、学生にとって魅力ある就職先の創出や地域が求める人材を養成するために必要な諸事業を実施しました。



#### (4) COC+参加5大学の紹介



### 滋賀大学

～知（地）の21世紀をきり拓く!～

滋賀大学は、社会連携センターや地域連携教育推進室のプログラムをはじめとして、地域と連携した様々なプログラムに取り組んできました。

教育プログラムでは、県内の中小企業のビジネスプロジェクトに長期で取り組むプロジェクト型インターンシップ、企業、行政、NPOの働き方探求や課題解決をテーマとするPBL型プログラム等を実施し、学生が地域と関わりを深め、将来の進路選択の一つとして滋賀県での就業が選択される素地づくりに取り組んでいます。

また、地域人材の育成として県内の地方公共団体や市民活動などを対象に、地域活性化プランナー学び直し塾を開講してきました。さらに、彦根市議会との連携協定のもと「市議会議員と地方自治を考えるプロジェクト」や彦根商工会議所との連携で「企業人と語るプロジェクト」などを実施しました。

COC+事業では、滋賀大学のこのような地域密着・共有・連携をより緊密なネットワークとして整備・強化してきました。



### 成安造形大学 【 】

～芸術による社会への貢献～

成安造形大学は「芸術による社会への貢献」を基本理念として、地域連携推進センターや附属近江学研究所を設置し、地域、社会、企業と学生をつなぎ、滋賀県唯一の芸術大学の特徴を生かした活動を展開しています。同時に、キャリアサポートセンターが、社会人としての基礎的な能力の習得を目指して一人ひとりの学生に対し手厚くサポートしています。

学生たちは、官公庁や一般企業、地元の各種団体などと一緒に進めるプロジェクトを通じ、試行錯誤しながら取り組んでいくうちに「課題を見つける力」「企画してカタチにする力」「多くの人と連携する力」を身につけ、自身のキャリア形成に生かしています。



これらの社会貢献活動は、キャリアデザイン科目や地域貢献・プロジェクト科目という正課の科目として行われています。

○ 事業に関連する学内組織

|              |  |
|--------------|--|
| 附属近江学研究所     | 「近江里山フィールドワーク」「近江学」「琵琶湖の民俗史」などの科目を開講し、近江固有の文化・風土がもつ「豊かさ」を掘り下げ、近江という地域の魅力を深く理解します。これらは、附属近江学研究所が支える科目です。              |
| 地域連携推進センター   | 「コミュニティデザイン概論」をもとに、「大津祭ちま吉プロジェクト」「大津市歴史博物館おもちゃづくりワークショッププロジェクト」「滋賀県環境政策課と協働プロジェクト」など各種プロジェクト科目を地域連携推進センターがサポートしています。 |
| キャリアサポートセンター | キャリアデザイン科目は社会人基礎力を養成する講座や、県内企業等と連携したインターンシップなども早くから単位化して開講しています。芸術を学んだことを生かして、地元で働き暮らすことをイメージできるよう支援をしています。          |

○ 事業に関連する独自の取組

地域教育（地元志向）プログラムの一つである「大津祭曳山連盟公式キャラクター『ちま吉』プロジェクト」では、成安造形大学の学生がデザインした大津祭曳山連盟公式キャラクター「ちま吉」を使用して祭りを盛り上げるために、種々の活動を展開しています。



大津祭曳山連盟公式キャラクター『ちま吉』

令和元年度の活動の一つとして「ちま吉の絵描き歌」を創作しました。「大きな湖 お船がぶっかぶか」と顔の輪郭と口から描き始める歌で、9月には大津市内の保育園で園児にチャレンジしてもらいました。学生からは「みんなで楽しくちま吉を描いてもらいたい」、園児からは「ちょっと難しかったけど、描けて嬉しい」と話していました。絵描き歌は、動画投稿サイトでも公開しています。

ちま吉とまきまきえかきうた：<https://youtu.be/Z17ylm-vLhE>

ちま吉ウェブサイト：<http://chimakichi.com>



えかきうた



ウェブサイト



絵描き歌を聞きながらちま吉を描く子どもたち

～人と地域を結ぶ“ほっと” CAMPUS～

聖泉大学は、建学の精神を「人間理解と地域貢献」とし、地域の伝統と文化を貴重な資源として学生たちが主体的に学ぶことを大切にしています。地域で得る学びは、卒業後の社会での活躍を支える確かな力となります。また、学生が地域と交流し、地域で学んだ学生が地元へ就職することで、若い力が地域を活気づけています。

学生の地域での学びは、キャリア教育科目やプロジェクト科目等の正課のほか、学生の地域貢献プロジェクトとして「聖泉版・近江楽座」をスタートするなど、COC+を通じて地域教育・連携活動を積極的に推進してきました。



○ 事業に関連する学内組織・取組

|               |   |
|---------------|---|
| 地域連携交流センター    | 地域連携の窓口となり、公開講座や高齢者の学び直し講座（健康づくりリーダー養成講座）等の開催や、防災サポーターとして地域の防災啓発活動の支援、学生の地域貢献プロジェクトのサポート、地方公共団体・産業界・地域社会との連携を推進しています。               |
| インターンシップ      | 大学独自・他大学との連携型・短期・中期等、滋賀県内の企業・団体・地方公共団体と連携した多様なインターンシップを推進し、学生の社会人基礎力の育成に努めています。   |
| 地域貢献とキャリアサポート | 看護研究活動の支援を通じた地域社会への貢献と、卒業生のキャリアサポートを目的に「看護キャリアアップセンター」を設置しています。卒業後のキャリアアップを支えることはもちろん、地域の保健・医療・福祉施設に勤務する看護職者のための研究拠点としても大学を開放しています。 |

～地元が強い！『地域密着型の大学』～

びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部は、志望者の多くが滋賀県出身。大学では80%、短期大学ではほぼ100%にもなり、多くの卒業生が地元での就職を希望しています。

地域と関わる教育として、東近江市と共同で開講している科目「東近江の地域学」は、学生の地域との関わりをより強くするもので、「地域政策入門」や「地域社会学」などの科目も開講しています。地域との交流では、和太鼓部、ボランティアサークルなどの学生サークルが地域のイベントや行事に積極的に参画し、好評をいただいています。

また、地域貢献事業として、卒業生や地域の方も多数受講されている公開講座や教員向けの講習各種（教員免許状更新講習、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得特例講座、免許法認定





講習など)の開講、子育て支援事業などを開催しているほか、学校や福祉施設、団体、行事などへ多くの教員や学生が各々の専門性を生かして参加しています。

学生たちは、地域をよく知り、地域の人々と交流することで多くの学びを得るとともに、地域への愛着を深め、地域に貢献できる人材として巣立っています。



**びわこ成蹊スポーツ大学**  
BIWAKO SEIKEI SPORT COLLEGE

西に比良山系、東に琵琶湖、自然豊かな湖畔の立地を生かした「人間力教育」を展開し、地域貢献を目指します！

びわこ成蹊スポーツ大学は、平成15年の開学以来、新しいスポーツ文化の創造のための教育研究に努め、人々のスポーツ要求、健康要求を開発・支援することのできる豊かな教養と高度な専門性を有する人材の育成を目指しています。

また、地域貢献事業として、「びわスポキッズプログラム」の取組や地域社会をフィールドにしたアクティブ・ラーニングを展開するなど、教育・研究成果を地域社会と結びつけながら、地域に根差した大学づくりを進めています。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックや滋賀県の2巡目国体などを契機に、社会的なスポーツ要求が高まりつつあります。また、高齢化、成熟社会化の中で、人々の心身の満足度を高めるスポーツの価値は、今後ますます高まることが期待されます。びわこ成蹊スポーツ大学では、このような社会の中で、COC+参加大学および関係機関・団体の皆様と連携して、今後も学生の地元地域への雇用促進に取り組めます。



○ 主な関連事業

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <p>びわスポキッズプログラム</p>      | <p>子どもたちにスポーツ(運動・遊び)を提供するために、大学で研修を受けたキッズリーダー(学生)を保育園・幼稚園等へ派遣しています。<br/>びわスポキッズフェスティバルは、一流の指導者や日頃から様々なスポーツに取り組むキッズリーダーと共に楽しむ中で、子どもたちのスポーツのセンスとマインドを磨くことを目的としており、子どもたちのあらゆる「可能性の種」をスポーツを通じて、その「芽」を育み、将来大きな「花」(夢)を咲かせるために実施しています。</p> |
| <p>スポーツボランティア実習</p>      | <p>学生が様々なスポーツ現場にボランティアとして参加することで、スポーツを「する」から「変える」ことへの意味を学び、また、地域においては、スポーツ文化の普及・振興に向けた取組の達成を目指しています。</p>  |
| <p>滋賀県および県下の市町との連携強化</p> | <p>滋賀県をはじめ、県下の市町と包括協定を締結し、スポーツの普及・振興や生涯スポーツと健康づくりの推進、滋賀ならではのスポーツ交流の創出、子どもや青少年の教育・健全育成などに取り組み、地域の活性化および若者の滋賀県定着を目指しています。</p>   |



## 第4章

# 教育プログラム改革における取組

# 1. COC＋大学(滋賀県立大学)における地域教育プログラムの実施

## (1) 近江楽士(地域学)副専攻「ソーシャル・アントレプレナーコース」

滋賀県立大学の「近江楽士(地域学)副専攻」は、地域基礎科目の履修を通して習得した基礎的な知識・能力を更に向上させて、「コミュニケーション力」「構想力」「実践力」からなる「変革力」を身につけるために、主専攻(各学科)に所属しながら任意に履修することができる全学共通の副専攻課程です。

「近江楽士(地域学)副専攻」の修了要件を満たした学生には、主専攻の修了時に、卒業証書・学位記と併せて「近江楽士」の称号が付与されます。

平成25年度の大学COC事業の採択を受けて、平成27年度に「近江楽士(地域学)副専攻」のカリキュラムが整備され、全学必修の「地域共生論」をはじめとする地域基礎科目を開講し、基礎科目の次の展開科目として、副専攻課程を位置づけました。

COC+の取組としては、平成28年度に「近江楽士(地域学)副専攻」に、「ソーシャル・アントレプレナーコース」を新設しました。「アントレプレナー」は「起業家」、「事業を興す者」という意味をもち、ビジネスの発想と手法によって地域課題を解決に導く起業家の人材や起業家精神をもって地元企業等でリーダーシップを発揮する人材の養成を目指しています。

「ソーシャル・アントレプレナーコース」では、地域基礎科目である「地域共生論」を出発点とし、副専攻課程で企業経営者と触れ合い、更に学生がそれらの企業における中期インターンシップに参加し、地元定着を促すという一連の流れにおいて、それぞれの教育プログラムを有機的に関連づける「教育プログラムのサプライチェーンモデル」の構築を図っています。

滋賀県立大学の学部の構成上、手薄であった分野をカバーする科目内容でもあり、これまでは副専攻プログラムへの参加が少ない傾向にあった工学部系の学生にとっては、技術論にとどまらず、技術や専門性を背景として、市場や地域社会と関わることにつながるプログラムとして、新たな学びの機会を得るこ



とが可能となりました。学生自身もプログラムによって、自らの新たな可能性を確認したり、興味関心を喚起する機会になるなどの意義をもっています。

#### 称号授与者の推移

| 年度      | コミュニティネットワーク・コース | ソーシャル・アントレプレナーコース | 備考                             |
|---------|------------------|-------------------|--------------------------------|
| H27     | 12               | -                 |                                |
| H28     | 10               | -                 |                                |
| H29     | 3                | -                 |                                |
| H30     | 23               | 3                 | SE コースの3人はCN コースの称号も獲得         |
| R1 (見込) | 16               | 5                 | SE コースの5人のうち4人はCN コースの称号も獲得見込み |

#### (2) 「MBA入門」(旧:「経営学序論」)

「MBA入門」は、COC+事業において「近江楽士(地域学)副専攻」にソーシャル・アントレプレナーコース必須科目として、新設されました。学生の地元就職率の向上を図るため、企業経営に関する知識の習得だけでなく、収集した情報から企業分析を行う力を養成することを目的とする科目です。なお、平成28年度から平成30年度までは「経営学序論」の名称で開講されました。

本科目は、企業経営を疑似体験形式で学ぶビジネス・ゲームや地元企業のケース・スタディ等の実践的な内容を特徴としており、学生は、企業経営に関する知識・ノウハウや事業のマネジメントの考え方、手法や企業活動による地域課題の解決について学びます。

ビジネスゲームやケースメソッドなど授業全体の約70%をアクティブ・ラーニングで占めることを大きな特長としています。ビジネスゲームでは、ロールプレイによって会社経営を疑似体験しながら「企業の見方」や「経営感覚」を習得するとともに経営の基礎を学ぶことができ、ケースメソッド・スタディでは地元中小企業の事例を取り上げ、地元経営者との対話から地元企業の魅力に触れることができます。学生が地域の産業や地元企業のダイナミックな企業活動についての理解を深めるとともに、就職活動においても受身ではなく、自らの道を積極的に切り開く人材の養成を併せて目指しています。

#### 対象年次および単位数

2年次後期、2単位

#### 履修登録人数

平成28年度 12人

平成 29 年度 6 人  
平成 30 年度 21 人  
令和元年度 32 人

#### 学生に及ぼした効果や主な事業成果（学生の意見・感想）

- この授業は就職活動する前に受講しておくべきでした。
- 社会の変化やビジネスモデル、企業戦略などを実践的に学ぶことができました。
- 企業価値や株式価値の算出などこれから社会人となったときの大きな武器になると思いました。



### （3）「コミュニティとライフデザイン」（旧：「地域社会と女性キャリア創生」）

「コミュニティとライフデザイン」は、「近江楽士（地域学）副専攻」ソーシャル・アントレプレナーコース必須科目として、平成 28 年度に新設されました。

日本の地域社会は、昨今の時代の流れの中で、全体的なデザイン変更・再構築を迫られており、様々な課題の解決と新たな可能性の開拓のためには多様な人材が本来の力を生かしながら活躍できる全員参加型の社会を創出していく必要があります。こうした問題意識を踏まえて、多様な人材が本来の力を生かしながら活躍できる仕組みや場の創出について学ぶ科目です。

授業では、昨今の女性の活躍推進をめぐる事例の研究を中心に地域に根差した事業に取り組む女性起業家やリーダー、あるいは新たなライフスタイルを体現する人々を招き、ライフストーリー全体を見通したキャリア形成と社会のあり方について、ワークショップも交えて具体的に議論しました。加えて、滋賀県子ども青少年局との連携授業も組み込むとともに、滋賀県女性活躍推進課、女性起業家の団体マザーウテラスの協力も得ながら運営しました。

平成 28 年度は「地域社会と女性キャリア創生」として、平成 29 年度から平成 30 年度までは「地域社会とキャリア創生」の名称で開講されました。

#### 対象年次および単位数

2 年次前期、2 単位

## 履修登録人数

|        |     |
|--------|-----|
| 平成28年度 | 7人  |
| 平成29年度 | 14人 |
| 平成30年度 | 11人 |
| 令和元年度  | 11人 |

## 学生に及ぼした効果や主な事業成果（学生の意見・感想）

- ・自らや家族の出産・育児・介護も含むライフストーリー全体を見通したキャリア形成と社会のあり方について、ディスカッションやワークショップも交えて、主体的に学ぶことができました。
- ・働き方やキャリア創生、女性をはじめとする多様な人材の活躍をめぐる構造的な問題にも触れることによって、一般のキャリア講習のように、学びの成果を自らのキャリア創生につなげるだけでなく、自らもキャリア創生の過程を通じて社会課題を解決していこうという当事者意識を醸成することができました。
- ・具体的なロールモデルとしてのゲスト講師の事例に触れたことで、キャリア創生の過程で誰もが直面することになる転機や壁について、シミュレートするとともに、経験者の立場からのメンターの機能を果たすような人脈を形成することができました。



## （４） 「地域企業講座」（旧：「地域中小企業講座」）

「近江楽士（地域学）副専攻」ソーシャル・アントレプレナーコース必須科目として、平成29年度前期から新規開講されました。

県内の優れた中小企業の経営者を招き、自社の事業や経営、理念、経営環境、将来ビジョンなどについて講義をいただき、学生には財務諸表では見えない企業の強みや弱み、機会や脅威を見抜く実践的知識を習得することに加え、地元企業の魅力や地元で働き暮らすことの意義について、ディスカッションやワークショップを通じて、参加者が共に学びあう科目です。なお、平成29年度および平成30年度は「地域中小企業講座」の名称で実施されました。学生には、地元企業の事業内容を十分に理解していなかったり、大手の下請けに過ぎないといった固定的なイメージをもっている者が少なからず存在します。このイメージを払拭するとともに



に、地元企業の経営者との出会いや対話を通じて、地元企業の理解を深め、地元就職率の向上に寄与することを目的に実施しました。

外部講師には中期インターンシップの受入先、県立大学卒業生の就職先として実績のある企業や県立大学学生の受入れに積極的な企業を中心に、また、学生のニーズに広く応えるため、製造業のみならず、小売業やサービス業のトップにも出講を依頼しました。

#### 対象年次および単位数

3年次前期、2単位

#### 履修登録人数

|        |     |
|--------|-----|
| 平成29年度 | 23人 |
| 平成30年度 | 11人 |
| 令和元年度  | 18人 |

#### 学生に及ぼした効果や主な事業成果（学生の意見・感想）

- ・学生アンケートの結果では、県内企業のトップとの対話を通じて、「自分の社会における存在意義を見出せることができた。」、「社長の話を聞いて、自分はどのように生きて行きたいか考えるようになった。」といった肯定的な感想が多くみられ、本科目が学生の今後の人生の指針となったことが伺えます。



#### （5）「地域デザインC」

「近江楽土（地域学）副専攻」ソーシャル・アントレプレナーコース推奨科目として、平成28年度後期に新たに開講した科目で、地域をつなげる居場所づくりにチャレンジし、そのノウハウを学ぶとともに超高齢化、人口減少社会における地域の活力創造のノウハウを実践的に学修する実習科目です。

具体的には地域の団体（地方公共団体、企業、NPO等）と連携し、その要請に応える形で学生が運営するコミュニティ・カフェによる居場所づくりを実践しました。学生たちは地域の人々が集う居場所づくりの実践を通じて、地域との対話力、企画・提案力、実施ノウハウを身につけることができました。

#### 対象年次および単位数

2～4年次後期、2単位

#### 履修登録人数

|        |    |
|--------|----|
| 平成28年度 | 3人 |
|--------|----|

|        |     |
|--------|-----|
| 平成29年度 | 11人 |
| 平成30年度 | 3人  |
| 令和元年度  | 8人  |

#### 学生に及ぼした効果や主な事業成果（学生の意見・感想）

- ・コミュニティ・カフェの実施に向けて、学生が地域の取材や交流を行う中で、今まで気づけなかった地域の魅力を発見することができました。地域に関わる多様な主体の世代間交流も促進され、大学や学生、住民との新たなつながりを創出する効果も確認することができました。



#### （6）「地域デザインD」

COC+事業の一環で、平成29年度後期に新たに開講した実習科目で、様々な地域資源を生かし、地元密着型の新事業プランの作成・提案、あるいは民間や公的機関による人材養成の取組などとタイアップし、出張型イベントの企画・立案とその実施・運営を行いました。このような実践的なプログラムに取り組むことにより、学生のアントレプレナーシップやマネジメント力の養成・向上を図ることを目的としています。

平成30年度および令和元年度は、「アートでまちを元気に」をテーマに滋賀県立文化産業交流会館の「アートマネジメント人材養成講座」との合同科目として本科目を開講し、地域のNPO法人の協力を得ながら、出張型コンサートの企画・制作・運営を行いました。

#### 対象年次および単位数

2～4年次後期、2単位

#### 履修登録人数

|        |    |
|--------|----|
| 平成29年度 | 2人 |
| 平成30年度 | 3人 |
| 令和元年度  | 1人 |



### 学生に及ぼした効果や主な事業成果（学生の意見・感想）

- ・平成30年度と令和元年度には、アーティストやアウトリーチの受入れ側（組織や施設）との協議・調整を通じての、地域活性化に結びつくようなアウトリーチの企画・立案を社会人と一緒に進めるとともに、広報、資金計画、舞台技術などについて学ぶことにより、今後、学生が地域イベントの開催やまちづくり等に取り組む際の貴重な経験や知識を得ることができました。
- ・授業終了後の学生アンケートには、「よくねられた授業内容と進め方で、実践し、本番も満足のいくものでとても良かった」、「アウトリーチのプロ、舞台演出のプロの方と一緒に授業ができて本当にタメになることばかりでした」との回答がみられました。



## 2. COC＋参加大学における地域教育プログラムの実施

### (1) 「地域共生論」の共通科目化

「地域共生論」は、平成25年度の大学COC事業の採択を受けて、平成26年度より全学必修の地域基礎科目として開講された科目です。

学生が地域課題について学習するとともにコミュニケーション力、行動力、問題解決力を高めることを目的としており、300人を超える人数でのアクティブ・ラーニングの実施を大きな特長としています。

平成27年度のCOC＋事業の採択を受け、この「地域共生論」をCOC＋参加5大学において共通科目化することで、県域に波及させることに取り組みました。滋賀県立大学は「地域共生論」のノウハウを提供し、COC＋参加大学では、滋賀県立大学の「ねらいと特徴」を共通認識としながら、それぞれの特徴を生かしたアレンジを行い、学生が地域共生の意義を学ぶ機会を提供しました。この「地域共生論」の共通科目化は、平成29年度までにCOC＋参加大学の全てで実施されています。

参加校における「地域共生論」の実施状況は以下のとおりです。

## ① 滋賀大学

### ✓ 科目名「地域共生論」

グローバル化が進む中で、地域の重要性が高まる中、特に彦根市を中心とした滋賀県における経済活動と市民活動の理念と実践を学ぶことを目的に実施しています。

彦根市の歴史は古く、およそ400年の歴史をもっており、仏壇産業やバルブ産業、近隣にも長浜市の黒壁等、全国的にも有名な地場産業や土着性の高い企業が存在しています。このような伝統的な街であるが故に、市民の連帯も強く、様々な市民活動も盛んな地域です。彦根城のお堀を周遊する屋形船や市内を巡る自転車タクシー、映画のロケーション支援などの観光系活動や、学習支援や子ども食堂、高齢者や障害者の場所づくり活動などの地域福祉系活動などたくさんの団体が活動しています。

本科目では、地域の経済活動と市民活動の理念と実践を学んでいくことで、滋賀大学経済学部が立地する彦根市や近隣市町、ひいては滋賀県という地域の価値について学ぶとともにこれらの地域が今後いかにあるべきかについて考えました。



### ✓ 履修登録人数

| H28 | H29 | H30 | R1  |
|-----|-----|-----|-----|
| 99  | 552 | 219 | 220 |

## ② 成安造形大学

### ✓ 科目名「コミュニティデザイン概論」(地域共生論)

成安造形大学の地域共生論である「コミュニティデザイン概論」は、2年生が全員履修する指定科目です。履修した学生からは、「地域で展開される様々なイベントが、それぞれの課題解決に向かう目的をもって行われていることが理解できた。」「自分ならどの立ち位置で(地域に)貢献できるかなどを考える良い機会になった。」「積極的に(授業である)プロジェクト演習を履修して実際に地域に出てみたいと思った。」などの声が聞けました。

この学習により、地域貢献活動を具現化した「プロジェクト演習」を履修する学生がより主体的、積極的に取り組むようになり、学生自身の学びが深くなりました。一方、授業だけでなく、自主的な活動を支援する「セイアン近江楽座」への関心が深まり、参画学生は当初の年間17人から58人へと増えるなど相乗効果がみられます。



✓ 履修登録人数

| H28 | H29 | H30 | R1  |
|-----|-----|-----|-----|
| 184 | 226 | 251 | 233 |

③ 聖泉大学

✓ 科目名「キャリアデザインA」(地域共生論)、「キャリア教育I」(地域共生論)

高度情報化、グローバル化、少子高齢化など、複雑多様化する現代社会において、様々な立場や役割をもった市民がともに関わり、助け合うことが強く求められています。そうした中で、一市民としてどのように社会に関わり、貢献していくのか。また、将来にわたり、どのような役割を果たしていくのか、一人ひとりの意識や行動が問われています。

このような問題意識に立ち、聖泉大学の地域共生論では、大学生のキャリアデザイン(将来設計)の一環として、外部講師による講演会やキャリアプランニング講座、先輩学生による地域活動の成果報告会を聴講する機会を与えるなどの内容を実施してきました。外部講師には地方公共団体や社会福祉協議会職員、NPO団体職員、国際ボランティア参加経験者などを招聘し、学生の地域活動や社会貢献活動に対する興味関心を引き出し、その後の活動への参画を促すことを意図しました。

授業後の振り返りシートコメントには、「私もボランティアとして参画したい」「国際協力に関わりたい」「大学生としてやれることがあるように感じた」といった社会貢献活動に対する関心や動機付けが得られていることが伺えます。また、実際に協力いただいた関係団体の活動に参画したり、先輩の活動を引き継いでいくという事例もいくつか生まれています。このように、学生の社会貢献活動を継続発展させるための循環やネットワークが形成されていることも本取組の成果であると考えます。



✓ 履修登録人数

| 科目名                      | H28 | H29 | H30 | R1 |
|--------------------------|-----|-----|-----|----|
| キャリアデザインA<br>(人間学部 1 回生) | 42  | 52  | 43  | 49 |
| キャリア教育I<br>(看護学部 1 回生)   | -   | 92  | 84  | 74 |

④ びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部

✓ 科目名「地域共生論（「東近江の地域学」／「東近江学」）

東近江市内には13の近江鉄道の駅があります。近江鉄道は、びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部の学生はもちろんのこと、地域の住民にとっても通勤や通学的手段として欠かせない重要な存在です。しかし近年は、モータリゼーションの発展や生活様式の変化によって鉄道への依存度が低下し、かつてのような沿線地域の賑わいをみることが少なくなっています。

本講では、こうした地域が抱える問題を取り上げ、東近江市の現状を理解したうえで、東近江市における近江鉄道の沿線地域を中心にフィールドワークし、グループワークを通して、地域創生の意味や地域活性化についてとるべき行動について考えました。

受講者は、東近江市の地域創生の現状について、何が課題としてあるのかを理解し、地域がおかれている現状を理解し、東近江市および近江鉄道沿線の地域の活性化に対して、観光や交通を利用してどのような実験が可能であるについて考えました。



✓ 履修登録人数

| H28 | H29 | H30 | R1  |
|-----|-----|-----|-----|
| 125 | 118 | 98  | 153 |

⑤ びわこ成蹊スポーツ大学

✓ 科目名「地球の歴史と琵琶湖」（地域共生論）

琵琶湖は約400万年の歴史をもつ世界で3番目に古い古代湖であり、古くから人々の生活と密接につながってきました。本講義では、最初に約400万年前という時間が地球の歴史にとってどのような時代に位置づけられるのかを学びました。次に約400万年の琵琶湖の歴史の中で、どのような変化が起こってきたのか、最後に琵琶湖の自然の中で人々の営みがどのように繰り広げられて来たのかを学びます。講義を通じて、人と自然の関わりがどうあるべきか、また、自然を生かしつつ心豊かな社会を今後どうつくり上げていけばよいのかについて考えました。



✓ 履修登録人数

| H28 | H29 | H30 | R1  |
|-----|-----|-----|-----|
| 183 | 172 | 165 | 331 |

## (2) 「地域コミュニケーション論」の合同科目化

地域基礎科目「地域コミュニケーション論」は、コミュニケーションの語源である「communicare（分かち合う、共有する）」に立ち返り、コミュニケーションとは何か、また地域社会でコミュニケーション能力が重要視される背景等について概観したうえで、産官学の様々な立場で活躍する地域人との対話や共同作業を通じて、リアルな地域課題を皆で分かち合い、その解決策を立案するための基礎能力を身につけることを目指す科目です。

COC+事業の採択を受け、滋賀県立大学およびCOC+参加5大学で実施する合同科目に位置づけられ、平成28年度より、毎年2月の滋賀県立大学の地域活動実践ターム（冬期）に3日間の集中科目として実施されました。

本科目の特長としては、「地域人」（学生の学びをサポートする目的で、滋賀県立大学が定義し委嘱した地域の実践家やコーディネーター）の参画です。あわせて、滋賀県知事、県内企業の社長等のトップリーダをはじめとする多様なゲスト講師を招き、「浴びるように他者と出会い、対話し、作業する」過程を通して「コミュニケーションの基礎体力」を養いました。



### ① 主な内容



- ✓ **三日月大造滋賀県知事による講演**  
御自身の生い立ちのお話から、琵琶湖、ピワイチ、健康しがの話と多岐にわたるお話の後に、学生と自由で率直な意見交換を行い、コミュニケーションやリーダーシップなどについて伝えていただきました。

✓ となりの who' who-取材して人物紹介記事を書く

地域人との対話をするためのウォーミングアップのためのワークで、新聞のインタビュー記事を読み、記事の構造・構成について分析をします。その後、グループに別れ、お互いにインタビューをし合い、紹介記事を作成しました。

✓ グラフィックファシリテーションの技法ー議論やアイデアを見える化する

会議や講演会の内容をホワイトボードなどに「可視化」するグラフィックファシリテーションの手法を体感しました。



✓ 地域人との対話

学生と地域人がグループに別れ、人生折れ線グラフを見せ合いながら対話を行い、思考や価値観の幅を広げるとともに、様々な転機を人生に生かすために必要な心構えやふるまいについて学びました。



② 受講者数・地域人の参加数

|                       | H28 | H29 | H30 | R1  |
|-----------------------|-----|-----|-----|-----|
| 受講者数                  | 63人 | 27人 | 62人 | 51人 |
| 受講者のうちCOC+参加大学からの参加者数 | 16人 | 12人 | 4人  | 10人 |
| 参加した地域人の数             | 30人 | 18人 | 30人 | 18人 |

## 学生に及ぼした効果や主な事業成果（学生の意見・感想）

- 広い視野をもつことにより固定的な考え方が正反対になることもあると感じた。
- 豊かなコミュニケーションをとれることはこれから生きていくうえでとても重要なことだと理解できた。
- 自分の周りのことに気づくことのできる人たちに出会い、会話をすることで、その人たちのエネルギーやまぶしさを実感することができた。
- この3日間で、面白い活動をする地域人や地域活動に興味のある他大学の学生とつながることができた。この出会いを大切にしながらの「私なりの地域活動」に生かしていきたいと思う。
- 三日月知事は「県民の幸せ」を、野々村さんは「障害者、ひきこもりの方など全ての人の幸せ」を願って活動されていた。人の幸せや喜びを願い、共感できることがこれからの自分の人生を送るために重要であると感じた。
- 地域人の方々に共通しているのは「行動力」や「積極性」であると感じた。また、その根底にははっきりとした「芯」があった。だからこそ、決めたこと、やりたいことに向かって突き進むことができるのではないだろうか。「自分」をもつことはその人の人生を豊かにするために必要不可欠であると感じた。
- 地域人とのプロジェクトを考えるワークショップでは、デザインの視点からものごとをとらえ、チームのメンバーとアイデアを共有できたのが嬉しかった。
- ゲスト講師の皆さんは現実的な夢を語り、それを実現するための道筋を考え、必ず行動していた。夢をもつこと、人生を楽しむこと、夢をかなえるために語ることを学んだ。
- 今回の授業を受けて自分が将来どんな仕事をしたいのかを考えさせられた。将来は自分の好きな仕事をしてみたいと思った。

### 3. 学生主体の地域活動「近江楽座」の仕組みの県域への波及

COC+大学である滋賀県立大学では、平成16年度より、学生主体の地域活動「近江楽座」を実施し、地域の再生・活性化に取り組んでいます。「近江楽座」は、学生自らがテーマを設定し、地域の方々と一緒に地域の活性化や社会貢献に取り組むものであり、活動を通じて学生がコミュニケーション力や課題解決力を高め、滋賀への愛着を深め、有為な人材の養成や地元定着に寄与することも期待されます。

COC+事業では、この「近江楽座」の取組をCOC+参加5大学に広げることも目指しており、各大学の特性を踏まえたアレンジを行いつつ、それぞれで独自の「近江楽座」活動を展開しました。この結果、滋賀県立大学の事業成果が広く波及し、学生が学内だけでは学べない実践的な学びと経験を得られる貴重な機会が拡大しました。

「近江楽座」の県域波及を行うに際しては、教育効果を高め大学と地域の連携を深めるため、以下の3つの目標を設定しました。

- ① 地域の課題に大学・学生が取り組み、地域の活性化に向けて共に活動する。
- ② 学生が地域の方々と一緒に活動することにより、学内だけでは学べないことを経験する。
- ③ 大学と地域が協働して、よりよい地域づくり・人づくりにつながる仕組みをつくる。

平成28年度から令和元年度までの4年間において実施されたプロジェクト数は以下のとおりです。

- 平成28年度 5大学 6プロジェクト試行
- 平成29年度 5大学 15プロジェクト
- 平成30年度 5大学 19プロジェクト
- 令和元年度 5大学 16プロジェクト

#### (1) 滋賀大学における「近江楽座」の実施状況

滋賀大学では、COC+事業への参画をきっかけにその特色を生かして地域密着型の「近江楽座」活動に取り組んできました。

平成28年度および29年度は、江戸時代からの職人街である「七曲がり街道」の活性化を目的とした「七曲がりフェスタ」のイベント企画・運営、平成30年度はJCMU（ミシガン州立大学連合日本センター）の留学生との協同プロジェクトとして彦根の商店街で開催される「柔びす講」における交流イベントを実施しました。また、令和元年度には、タンザニアの紹介イベント「アフリカデー」や地元スポーツチームと協働した「ラグビープロジェクト」など、幅広い事業を意欲的に展開し、学生の力による地域の活性化に取り組まれました。これらの取組では異文化に触れつつ、地元のことや、教育と幸せとの関わり、これからの教育のあるべき姿について理解を深めることができ、イベント終了後は、関係者からは「とても良かった」や、「大切なことを気付かせてくれてありがとう」といった言葉が聞かれました。



○ 実施プロジェクトと参加人数（令和元年度）

| プロジェクト名    | 内容   | 参加人数  |
|------------|--|---|
| アフリカプロジェクト | <p>タンザニアの文化を滋賀県内の人々に紹介し、異文化理解を通じて地元への理解を深めるべく、滋賀大学でタンザニアの紹介イベント「アフリカデー」の開催、アフリカボックスの制作およびアフリカ文化の普及活動を行う「アフリカプロジェクト」を実施しました。</p> <p>プロジェクトでは、タンザニア大使館のカンボナ臨時代理大使による講演会や、学生がタンザニアで見た「陸の豊かさ」と、「教育の質」についての発表やグループディスカッションを行いました。</p> | <p>参加人数（アフリカデーのみ）<br/>滋賀大学・学生 49人、一般 6人<br/>合計 55名</p>    |
| ラグビープロジェクト | <p>滋賀県彦根市に拠点を置くラグビースクール「ワイルドパンチ」と滋賀大学の体育会ラグビー部との協同プロジェクトとして実施しました。</p> <p>令和元年7月17日から9月25日にまで8回にわたりラグビー部員が子どもたちと一緒に練習メニューを行い共に体を動かし、触れ合うことでラグビーの楽しさを実感するとともに、彦根におけるラグビーの普及促進の重要性を感じることができました。</p>                                | <p>滋賀大学・体育会ラグビー部員 10人、ワイルドパンチ選手 10人、指導者 5名<br/>合計 25名</p> |



アフリカプロジェクト



ラグビープロジェクト

## (2) 成安造形大学における「近江楽座」の実施状況

成安造形大学は、地域連携推進センターを窓口として、地域からの依頼や相談に応じた連携を推進してきました。しかしながら、学生が主体的に考え動く地域活動の取組は乏しい状況でした。

そこでCOC+事業への参画をきっかけに学生の主体的な地域活動を支援する仕組みとして「セイアン近江楽座」プログラムを平成28年度に立ち上げました。参画学生は、自ら地域の課題を発見し、芸大生の特性を活かしたアプローチで課題解決や地域活性化を目指してきました。

初年度は1プロジェクト17名からスタートしました。その後、学生への周知に力を入れてきたことや地域教育プログラムでの学習が相まって、地域活動に対する意識や意欲が高まってきた結果、平成30年度は4プロジェクト79名、令和元年度は3プロジェクト58名の学生が参画するプログラムになりました。今後、さらに芸大生の特性を生かした活動を推進できるように、学生への支援を継続し、より深い地域交流へと発展させていきます。

### ○ 実施プロジェクトと参加人数（令和元年度）

| プロジェクト名  | 内容  | 参加人数 |
|--|---|------|
| こども美術館をつくろう！小さなアーティストたちの巨大絵画大作戦<br><br>チーム名：こども美術館づくり隊 | 地元の子ども達に美術の面白さを伝え、「美術離れ」の改善や地域の芸術文化の振興を目標に活動しています。地域に密着したイベントで芸大生ならではの視点で考えたワークショップを行い、子ども達の中にある美術に対する苦手意識を払拭し、表現の幅広さ・自由さなどを実感してもらいました。また、子どもの活動を通して親世代にも美術の魅力を伝え、教育としての美術への関心を高めました。 | 10人  |
| 似顔絵プロジェクト<br><br>チーム名：似顔絵サークル                          | 似顔絵制作を通して地域の方々とのつながりを深めること、また、地域に根差したイベントに参加して地域活性化の一助となることを目標に活動を行いました。年々、参加者の高齢化や減少が進む地域のお祭りなどで、子どもや子ども連れ家族に人気のある似顔絵制作を継続的に行うことで、若い世代の参加者の増加や定着を目指し、地域を盛り上げています。                    | 28人  |
| 三方良し自然農法を学び伝える<br><br>チーム名：ミノリブ                        | 品質にこだわり消費する量だけ生産する「質的生産」が、食品ロス問題の改善において重要視されていますが、その実際を高島市の農家の方から直接自然農法を学びながら知識を深めました。また、栽培した野菜を地域のイベントに出品し、自然農法の存在や魅力を地元の人々に伝えることで食品ロス削減につなげる活動を行いました。                               | 20人  |



こども美術館づくり隊  
「アートにどほん2019」でのワークショップの様子



似顔絵サークル  
仰木の里フェスタでの似顔絵イベントの様子



ミノリブ  
高島市の農家での農作業の様子

### (3) 聖泉大学における「近江楽座」の実施状況

聖泉版・「近江楽座」の「地域活性化への貢献“高齢者と看護学生の地域内交流”」プロジェクトにおいて、聖泉大学の看護学部の学生たちは自ら地域に飛び込み、高齢者の方々と交流しました。

大学の教室で学ぶことは大切なことですが、地域に出向いて、実際に生活している人々に出会い、生活場面に接し、リアルな現状に触れることは、大変に実のある学習となります。高齢者の方々から人生経験や生活史、生活の知恵や工夫をお聞きすることは、まだ十分看護の学習をしていない学生たちにとって大変貴重な経験です。そして「どのように生活しているのだろうか」「どんな状態が生活しやすいのだろうか」など、自分なりに疑問をもち、「こうなったらいいな、こんな生活を送るといいな」と思いをはせることで、人々の生活や健康の価値観が養われていきます。

高齢者の方々と接することで、学生はコミュニケーションを学び、人と接することの大切さ、楽しさを感じ、自己の存在に気づき、なにより「健康や看護について」考える機会になります。令和元年度は、高齢者の方々が行う地域ボランティア活動にも多くの学生が参加いたしました。交流で学んだ成果を、今後どのように地域社会に還元していくのでしょうか。学生たちが卒業後、地域で生活している人々と共に生きる一人の「地域人」として、安心な町づくりや人々の健康づくりのパートナーとして活躍することを期待しています。地域はまさしく人と触れ合う場であり、学生たちの「学びの場」にほかなりません。



#### ○ 実施プロジェクトと参加人数（令和元年度）

| プロジェクト名                   | 内容   | 参加人数 |
|---------------------------|--|------|
| 地域の赤ちゃん子育てママとほんわかするプロジェクト | 親子と地域をつなぎ、母親の情報共有、居場所づくりを目的とした団体 NPO法人ほんわかハートの赤ちゃんデーに参加。子育て中の母親および乳児と交流し、親子で行える手遊び歌やレクリエーション（キッズエクササイズ）を企画、実施しました。   | 23人  |
| 認知症の予防啓発プロジェクト            | 超高齢社会の中でますます課題となる認知症に注目し、認知症予防のための啓発活動を地域の高齢者サロンや学園祭で行いました。  | 7人   |
| 地域活性化への貢献                 | 稲枝地区3ヶ所の高齢者サロンに定期的に参加し、高齢者と対話交流、介護予防体操や認知症予防レクリエーションなどを行いました。また、小学生の登校時の挨拶運動や高齢者の方が行う地域ボランティア活動に参加し地域貢献に努めました。認知症の人と家族の会では、男性介護経験者の話を聞き、介護の現場の状況を知ることができました。 | 22人  |
| カフェ劇による八日市まちおこし           | 東近江市八日市は商都として繁栄し、現在はまちの新しいコンテンツとして文化芸能活動が盛んです。本プロジェクトでは、映画「走れアキオ」の制作とカフェ劇（カフェで実施する小劇場）での公演を実施しました。   | 10人  |

|                                   |  |     |
|-----------------------------------|--|-----|
| 2019別科助産専攻が行う「子どもの虐待予防：オレンジリボン運動」 | 子どもに対するマルトリートメント（不適切な関わり）を予防する関わりについて、①看護協会の看護フェア、②聖泉大学公開講座、③助産学実習を通じて啓発運動を実施しました。 | 10人 |
| Genius Loci 再活用プロジェクト             | 甲崎町川桁神社の春と秋の祭典式を見学し、滋賀県内各所の地蔵の所在と状況の調査を行いました。                                      | 4人  |



地域の赤ちゃんと子育てママとほんわかするプロジェクト



認知症の予防啓発プロジェクト



地域活性化への貢献



カフェ劇による八日市まちおこし

#### （４）びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部における「近江楽座」の実施状況

びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部では、「地域に貢献できる人材育成」を建学の精神として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、国際的な視野および幅広く高度な学識を身につけた有為な人材を育成し、もって地域社会の発展と学術・文化の向上に寄与することを教育目的としています。

びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部における「近江楽座」は、COC+事業を契機に平成29年度にスタートしており、これまでに、4プロジェクトが実施されています。プロジェクトに携わる学生プロジェクトは、教育福祉学部の学生を中心に構成され、教育と福祉の視点を生かして地域貢献や地域活性化を促すプロジェクトを実施しています。

○ 実施プロジェクトと参加人数（令和元年度）

| プロジェクト名                      | 内容   | 参加人数 |
|------------------------------|--|------|
| びわこ学院大学地域調査プロジェクト            | 近江鉄道に関連する写真の展示（移動）をもって、近江鉄道沿線市町が抱える鉄道の存続課題に対する市民の関心を喚起し、存続のカギとなる鉄道の利用を促す機会としました。あわせて、市民がそれぞれの市町で暮らし続けることのできる街づくりにもつなげていくことを視野に入れて活動を行いました。 | 17人  |
| ダンス・パフォーマンスを通じた地域の活性化        | ダンス・パフォーマンスを通じて地域の人々とふれあい、東近江市を中心とした地域のさらなる活性化に貢献することを目的として、地域のイベントや商業施設で活動を行ったほか、小学校や学童において、児童に向けてのダンス・パフォーマンスの披露、ダンスの指導を行いました。           | 26人  |
| 子どもたちに科学の面白さを体感させよう          | 実験やモノづくりを通して、地域の幼児や児童を対象に理科の面白さに触れてもらう教室を12回開催しました。  | 13人  |
| 信楽高原鉄道「サンタ列車」パフォーマンスボランティア活動 | 信楽高原鉄道「サンタ列車」の運行期間において、主に地域の未就学児を対象とした手遊びや歌、紙芝居等の車内パフォーマンス活動を企画、7回（日）実施しました。   | 28人  |



ダンス・パフォーマンス in コトナリエ



信楽高原鉄道「サンタ列車」



理科実験



近江鉄道13景写真展

## (5) びわこ成蹊スポーツ大学における「近江楽座」の実施状況

びわこ成蹊スポーツ大学における「近江楽座」は、大学の特徴を生かして滋賀県の子どもたちの体力向上・健康増進を推進する「びわスポキッズプログラム」を実施しています。

子どもが、よりよくスポーツを習得するには旬があります。特に3歳から6歳にかけては、神経系の発達が著しく、5歳の子どもは大人の80%まで成長します。

「びわスポキッズプログラム」では、この年代の子どもたちの“スポーツの芽”をしっかりと育むため、研修を積んだキッズリーダーが、保育・幼稚園・こども園等を訪問して、運動遊びの楽しさを伝えていきます。また、本学主催でびわスポキッズフェスティバルも開催し、子どもたちに対する“夢”や“憧れ”を抱いてもらえることを目的とした活動を行っています。

### ○ 実施プロジェクトと参加人数（令和元年度）

| プロジェクト名      | 内容   | 参加人数 |
|--------------|--|------|
| びわスポキッズプログラム | びわスポキッズプログラムは、「滋賀県の子どもたちを元気に！」をキーワードに外遊びが少なくなった子どもたちが運動遊び体験を通じてスポーツを好きになることを目的に活動しています。<br>本プログラムは、幼稚園・保育園等で学生が運動遊びを実施する“巡回指導”と、滋賀県各地で100～200名の子どもたちを集め開催する、“キッズフェスティバル”の2本柱で成り立っています。いずれも、本学学生が中心となり、「バランス」「リズム」「タイミング」の3要素をキーワードに、「運動遊び」を中心としたメニューづくりを作成し、滋賀県各地で実施しています。 | 94人  |



キッズフェスティバル in 甲賀



キッズフェスティバル in 草津



幼稚園・保育園への巡回指導の様子

## 4. 地域教育FD／SD研修の実施

滋賀県立大学では、教務課を中心に、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組として、FD研修会を実施しており、授業見学への計画的な参加、新任教員に対する初任者FD研修参加の義務化、学外FD研修への参加の奨励など、効果的な研修の実施に取り組み、平成29年度以降、全専任教員の3/4以上がFD研修に参加しています。また、COC+参加5大学においても全校で、全専任教員の3/4以上が参加するFD研修が実施されています。

これに加えて、平成28年度から令和元年度にかけて、地域教育FD／SD研修を計7回実施しました。本研修では、COC+事業で取り組んだ、「地域共生論」の教授法・ノウハウの共有とブラッシュアップや、合同科目「地域コミュニケーション論」の成果報告、アクティブ・ラーニング体験等を実施し、地域教育プログラムの改善に係るPDCAサイクルを機能させることができました。

### (1) 平成27年度地域教育FD／SD研修

実施日：平成28年2月26日（金）

参加者：33人

内容：

- ・平成27年度地域教育の成果報告
- ・「地域コミュニケーション論」の成果報告
- ・地域教育事例紹介「荒神山における県立大と地域との連携」
- ・簡単なアクティブ・ラーニング体験

### (2) 平成28年度地域教育FD／SD研修

実施日：平成29年2月23日（木）

参加者数：42人

内容：

- ・「地域コミュニケーション論」の成果報告
- ・アクティブ・ラーニング実践紹介（「経営学序論」）
- ・アセスメントテスト（PROG）の解説会〔教職員向け〕

### (3) 平成29年度地域教育FD／SD研修

実施日：平成30年2月22日（木）

参加者：33人

内容：

- ・地域教育プログラムの概要説明
- ・近江楽士ソーシャル・アントレプレナーコースの成果報告
- ・アクティブ・ラーニング実践紹介
- ・アセスメントテスト（PROG）の解説会

#### (4) 平成30年度地域教育FD/SD研修

##### 【第1回】

実施日：平成31年2月18日（月）

参加者数：30人

内容：

- ・講演会「大事なことだけシンプルに伝える技術」  
（講師：ヤフー株式会社コーポレートエバンジェリスト/YAHOO!アカデミア学長・伊藤羊一氏）

##### 【第2回】

実施日：平成31年3月22日（金）

参加者数：17人

内容：

- ・アセスメントテスト（PROG）の解説会

#### (5) 令和元年度地域教育FD/SD研修

##### 【第1回】

実施日：令和元年9月18日（水）

参加者数：10人

内容：

- ・地域教育とCOC+事業についての報告
- ・COC+参加6大学が取り組むインターンシップ事業の事例報告
- ・「働く一学ぶの滋賀モデルの構築」に向けた意見交換
- ・「地域共生論」の教授法・ノウハウの共有とブラッシュアップ



##### 【第2回】

実施日：令和2年3月25日（水）

内容：

- ・アセスメントテスト（PROG）の解説会〔教職員向け〕





## 第5章

# 地元就職率向上に向けた取組

# 1. 中期インターンシップの実施

## (1) 概要

滋賀県では、近年、20歳から24歳の層の若者が毎年1,000人以上減少するという状況が続いています。これは、学生が滋賀県内の大学を卒業した後に、県外に就職する割合が大きいものと考えられます。こうした状況を背景に、COC+事業では、卒業生の地元就職率の向上を目指して、中期インターンシップや学生と地元企業の相互理解を促進する取組を実施しました。

15日間以上の職場実習を行う中期インターンシップは、学生の地元企業の理解促進や学生と企業との出会いの場を新たに創出することを目的に実施しました。グループワークや業務疑似体験等により、学生と社員との交流が促進されることに加えて、実際の仕事に近い内容に触れることができるため、短期インターンシップと比べ、企業や仕事に対する理解度が深まり、志望度を高めるメリットがあります。また、継続性をもって仕事や課題に取り組む経験が得られることで、学生が自己の能力の伸長の必要性や適性等についてより多くの気づきを得ることができます。

COC+事業では、平成28年度から令和元年度にかけて、滋賀県立大学およびCOC+参加5大学の133人の学生に対して中期インターンシップの体験機会を提供しました。



## (2) 中期インターンシップの実施の流れ

中期インターンシップの実施に先立ち、滋賀県内6大学の様々な学部学科で学ぶ学生を対象に、共通の受入企業情報を提示し、学生はそれぞれの大学の就職支援などの窓口を通して申し込めるようにしました。

インターンシップは単なる就業体験ではなく、企業の経営内容などの考え方を知ることや実習課題に取り組むことも必要であるため、実習課題やテーマの設定に当たっては、単純な作業内容やアルバイトのような人員不足を補う仕事にならないよう受入先企業にお願いしました。

インターンシップの受入先は、滋賀県内に本社や事業所をもつ企業とし、COC+参加6大学は企業との綿密な連携をとりながら学生の指導にあたりました。インターンシップの終了後、参加学生は、各大学や就業体験先に報告書を提出し、受入企業は大学に評価書を提出しました。

平成 29 年度以降、中期インターンシップ実習生に対して旅費を支給する制度を新たに導入し、滋賀県立大学およびCOC+参加5大学における中期インターンシップをより積極的に推進しました。また、毎年12月に6大学連携・COC+中期インターンシップ報告会を開催し、中期インターンシップを経験した学生、受入企業、大学担当者による発表と振り返り、今後の目標などについての意見交換を行いました。



### (3) 中期インターンシップの実施状況

#### ① 平成28年度中期インターンシップの実施状況

##### 業種別

|        |     |     |
|--------|-----|-----|
| 卸売・小売業 | 2社  | 6人  |
| サービス業  | 11社 | 27人 |
| 公務     | 1団体 | 1人  |
| 合計     | 14社 | 34人 |

##### 大学別

|        |     |     |
|--------|-----|-----|
| 滋賀県立大学 | 1社  | 1人  |
| 滋賀大学   | 13社 | 33人 |
| 合計     | 14社 | 34人 |

#### ② 平成29年度中期インターンシップの実施状況

##### 業種別

|        |     |     |
|--------|-----|-----|
| 製造業    | 3社  | 4人  |
| 情報通信業  | 2社  | 4人  |
| 卸売・小売業 | 3社  | 6人  |
| サービス業  | 3社  | 5人  |
| 公務     | 3団体 | 5人  |
| 合計     | 14社 | 24人 |

##### 大学別

|             |     |     |
|-------------|-----|-----|
| 滋賀県立大学      | 8社  | 11人 |
| 滋賀大学        | 3社  | 7人  |
| 成安造形大学      | 2社  | 2人  |
| びわこ成蹊スポーツ大学 | 1社  | 1人  |
| 聖泉大学        | 2社  | 3人  |
| 合計          | 14社 | 24人 |

### ③ 平成 30 年度の中期インターンシップ実施状況

#### 業種別

|        |     |     |
|--------|-----|-----|
| 製造業    | 10社 | 13人 |
| 情報通信業  | 2社  | 2人  |
| 卸売・小売業 | 4社  | 8人  |
| 金融・保険業 | 1社  | 2人  |
| 不動産業   | 2社  | 2人  |
| サービス業  | 8社  | 11人 |
| 合計     | 27社 | 38人 |

#### 大学別

|             |     |     |
|-------------|-----|-----|
| 滋賀県立大学      | 7社  | 8人  |
| 滋賀大学        | 16社 | 21人 |
| びわこ成蹊スポーツ大学 | 4社  | 9人  |
| 合計          | 27社 | 38人 |

### ④ 令和元年度の中期インターンシップ実施状況 一覧

#### 業種別

|        |     |     |
|--------|-----|-----|
| 農業     | 1社  | 1人  |
| 建設業    | 2社  | 2人  |
| 製造業    | 5社  | 5人  |
| 情報通信業  | 4社  | 6人  |
| 卸売・小売業 | 4社  | 8人  |
| 不動産業   | 2社  | 2人  |
| サービス業  | 8社  | 13人 |
| 合計     | 26社 | 37人 |

#### 大学別

|             |     |     |
|-------------|-----|-----|
| 滋賀県立大学      | 3社  | 3人  |
| 滋賀大学        | 16社 | 23人 |
| 成安造形大学      | 2社  | 2人  |
| びわこ成蹊スポーツ大学 | 5社  | 9人  |
| 合計          | 26社 | 37人 |

#### (4) 中期インターンシップの成果

中期インターンシップを通じて学生が得た主な成果は以下のとおりです。

- 大学での学びが企業においてどのように役立つかを知ることができた。
- 働く自分が想像できるようになった。
- 企業で働くうえにおいて、自分に何が不足しているかを知ることができた。
- 企業での働き方と自分の希望とのマッチングを考えることができた。
- 先輩方からたくさんの経験談を聞くことができた。
- 職場の人と交流することによって、人間関係の大切さを感じ取ることができた。

#### (5) 中期インターンシップ報告会およびアンケートにおける意見・感想

##### ① 企業側から出た意見・感想

- 学生と本音で話すことができた。
- 学生がインターンシップにどのような気持ちや心構えで参加しているか分かった。
- 他社のインターンシップの目的や問題点、内容が理解できた。
- 成果を求めるならば、15日間でも短い。
- 大学連携での取組は有効なので、取組の認知が広がるとよい。
- 学生にはたくさんのインターンシップを体験して、就職への不安を取り除いてほしい。
- 学生だけでなく、受入企業にも多くの学びがあったと思う。
- ミスマッチ防止のためにインターンシップは有効である。
- 就職活動を楽しむために、学生が低年次から仕事について知ることはよいことである。
- インターンシップのあり方も多様であり、企業も柔軟に対応すべきと思った。
- インターンシップを通じて、地域の学生と関わりを持ち続けることの大切さを認識することができた。



##### ② 学生側から出た意見・感想

- 滋賀県内にたくさんの企業があることが分かった。
- 働くイメージができ、自分自身に足りないものが何か気づくことができた。
- 想像していたより社内のあたたかみを感じ、働きやすいと思った。
- 近くで仕事をみることができ、企業の求める人材や能力を知ることができた。

- 社会に出ることへの不安感を薄めることができた。
- 様々な視点からものをみることの大切さを学んだ。
- 社員と話し、ホームページやパンフレットでは分からない会社の雰囲気や中身を学べた。
- 自分に何が必要かを考え、将来のビジョンをもたなければならぬと感じた。
- 多くの人の仕事観に触れることができた。社会人の方と自分の違いがみえた。
- 大学の学びがどのように生きるかを体感できた。



## 2. 学生と県内企業の相互理解の促進

学生たちに地元就職を希望しない理由を尋ねると、「志望する企業がないから」という返事がよく返ってきます。しかし、もう一步踏み込んで聞くと、「企業がないから」ではなく「企業があるかないか知らない」という方が正しいように思います。滋賀県のように「B to B」の企業が多いと余計そうした傾向が強いのかも知れません。そこで、COC+事業では、関係団体と協力し、学生と県内企業の相互理解促進のため、双方が直接出会い情報交換できる場の提供に積極的に努めました。

例えば、環びわ湖大学・地域コンソーシアム、滋賀県商工観光労働部、滋賀県中小企業団体中央会との共催による「しが就活塾 1day ワークショップ」や大津市との共催による「地元企業と女子大学生のマッチング事業」を実施し、学生と企業のマッチングを積極的に推進しました。このほか、東近江市、彦根市、甲賀市、湖南市、高島市等の合同就職面接会（ジョブフェア）や彦根地区雇用対策協議会の「県内大学と会員事業所との情報交換会」等の開催に協力しました。

また、滋賀県立大学においては、県内企業の若手社員（大学OB・OG等）が学生ホール（食堂前）にブースを出展し、学生と気軽に交流する「ジョブ交座（こうざ）」を平成30年度から実施しました。

これらの取組により、大学・学生と地元企業が交流できる機会をできるだけ多く、かつ効果的に提供することができました。



## (1) しが就活塾 1 day ワークショップ

県内企業と学生の直接的な交流機会を提供し、特に学生が就職活動を始め前に県内業界・企業の魅力に触れることのできる機会を創出するため、滋賀県商工観光労働部、環びわ湖大学・地域コンソーシアムおよび滋賀県中小企業団体中央会との共催による「しが就活塾 1 day ワークショップ」を実施しました。

このイベントは、滋賀に本社がある企業を対象に業界・企業研究を行うとともに、企業が抱える課題について学生目線で解決策を論議し、プレゼンするものです。参加した学生たちは「経営」や「職場」といった視点から参加企業に係る理解を深めました。本格的な就職活動を開始する前に、企業研究を行うノウハウを身につけることができる有意義な学習機会となりました。



### ① 開催実績

| 年度  | 実施日<br>場所                             | 参加学<br>生数 | 参加企<br>業数 | 内容   |
|-----|---------------------------------------|-----------|-----------|--|
| H28 | 平成 28 年 12 月 10 日 (土)<br>男女共同参画センター   | 23 人      | 4 社       | 業界説明と企業説明、企業ブース訪問・学生の質問に対するフィードバック、自分達が担当業界に感じた魅力、課題や将来性などについてのプレゼン資料作成・発表 |
| H29 | 平成 29 年 12 月 10 日 (日)<br>草津市立市民交流プラザ  | 49 人      | 7 社       | 参加企業の個別課題に対して学生目線で解決策を考えるグループワーク等の実施                                       |
| H30 | 平成 30 年 12 月 9 日 (日)<br>草津市立まちづくりセンター | 27 人      | 9 社       | 参加企業の個別課題に対して学生目線で解決策を考えるグループワーク等の実施                                       |
| R1  | 令和元年 12 月 8 日 (日)<br>草津市立市民交流プラザ      | 22 人      | 5 社       | 自己分析、業界・企業研究、プレゼンテーション、面接トレーニング  |

### ② 参加学生の感想

- ・ いろんな業界、企業の内部事情を知ることができた。
- ・ 実際に体験することで、自分に足りない部分や尊重しても良い部分が分かった。
- ・ 志望動機を考えるに当たっての良い経験になった。
- ・ 短時間で自分と企業をつなげる訓練になった。
- ・ プレゼンカ、面接時の対応の方法を学べた。
- ・ 実際にフィードバックをしてもらうことで、自己PRを考え直すきっかけになった。



## （２）「県内大学と彦根地区事業所との情報交換会」

彦根地区雇用対策協議会とCOC+参加6大学との共催で、協議会会員企業の人事担当者とCOC+参加6大学の就職支援担当教職員が複数のテーマについて意見交換し、就職支援・求人对策の両面で現状と課題を共通認識するとともに、より一層の相互連携を深める「県内大学と彦根地区事業所との情報交換会」を平成29年度から継続して実施しました。

参加した企業の関係者からは、学生と大学側の実情がよく分かったとの声を多く聞けました。令和元年度の情報交換会では、卒業生をうまく活用して大学と日常的なつながりを強化するための具体的なアクションを検討したいとの意見が出るなど、これまでより一歩進んだ成果がみられました。



### 開催実績

| 年度  | 実施日<br>場所                     | 参加者<br>数 | 内容   |
|-----|-------------------------------|----------|--|
| H29 | 平成29年10月16日(月)<br>ホテルサンルート彦根  | 40人      | 「滋賀県の学生を育て、滋賀県に就職してもらうためには」をテーマとした意見交換                                   |
| H30 | 平成30年11月21日(水)<br>グランドデュークホテル | 49人      | 「低回生のキャリア教育（インターンシップ等）のあり方」、「秋季採用選考活動へのアプローチ等」、「就活でのミスマッチ防止策」をテーマとした意見交換 |
| R1  | 令和元年11月28日(木)<br>マリアージュ彦根     | 39人      | 「大卒における学校側の課題と企業側の課題とは?」「企業と大学のお互いのズレとは?」をテーマとした意見交換                     |

## （３）ジョブ交座（滋賀県立大学）

滋賀県内にはたくさんの優良企業があること、また、その企業で多くの卒業生が活躍していることを在学学生に伝えるとともに、学年に関係なく早い段階で様々な業種の社会人と接することで自分自身のキャリアの選択肢を広げてほしいとの目的で、平成30年度から滋賀県立大学において「ジョブ交座（こうざ）」を実施しました。

多くの学生が利用する学生ホール（食堂前）において、1回あたり県内の優良企業等3~4社にブースを出展いただき、滋賀県立大学の卒業生などの若手社員から自社のPRや就職活動についてのアドバイスをさせていただきました。通常の企業説明会のような堅い雰囲気ではなく、私服や作業着等の自由なスタイルで、楽しく交流する場面が多くみられました。

出展企業等は、中期インターンシップの受入先企業、近江楽士（地域学）副専攻ソーシャル・アントレプレナーコースの科目で外部講師として出講実績がある企業、県内地方公共団体等から選定しました。

通算8回の開催で延べ431人の学生の参加があり、なかには、長時間熱心に先輩の話に聞き入る学生もいて、優良な県内企業の存在を知る「入口（きっかけ）」として「ジョブ交座」は機能したように思います。

学生に対するアンケートでも、「先輩から入社後の話が聞け、企業イメージがつかめた」、「採用から詳しい業務の内容まで聞け、採用試験を受けてみようと思った」、「この企業に興味をもった」、「もっと話を聞きたかった」、「また開催してほしい」という声が多くありました。出展した企業関係者からも、高い評価をいただくとともに、今後ともこうした機会に参加したいとの意見を多くいただきました。



## 開催実績

・平成30年度 3回実施 12企業等・学生181人参加

| 回 | 実施日時           | 参加学生数 | 出展企業等数 |
|---|----------------|-------|--------|
| 1 | 平成30年10月31日（水） | 55人   | 4      |
| 2 | 平成30年11月28日（水） | 56人   | 4      |
| 3 | 平成30年12月13日（木） | 70人   | 4      |

・令和元年度 5回実施 18企業等・学生250人参加

| 回 | 実施日時         | 参加学生数 | 出展企業等数 |
|---|--------------|-------|--------|
| 1 | 令和元年6月13日（木） | 50人   | 4      |
| 2 | 令和元年7月18日（木） | 66人   | 3      |

|   |                  |     |   |
|---|------------------|-----|---|
| 3 | 令和元年 10月 10日 (木) | 60人 | 4 |
| 4 | 令和元年 11月 7日 (木)  | 38人 | 3 |
| 5 | 令和元年 12月 12日 (木) | 36人 | 4 |

#### (4) 地元企業と女子大学生のマッチング

女子大学生の地元企業への定着を促進する取組として、平成 28 年度に「地元企業と女子大学生のマッチング事業」を大津市とCOC+参加大学の協働で実施しました。交流会には、成安造形大学およびびわこ成蹊スポーツ大学の女子学生 42 人と大津市内の企業 19 社の経営者等が参加し、働くことの期待や不安などについて率直な意見交換が行われました。学生からは「地元企業の良さを再認識できた」などの感想が寄せられました。





## 第6章

# 雇用創出・雇用拡大に向けた取組

# 1. 大学によるアイデアコンテスト

創業・起業による雇用創出に向けて、参加大学の学生のアントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成を図るために毎年度、「大学によるアイデアコンテスト」を実施しました。これは、大学生を対象に地域課題をビジネス的な手法で解決する事業計画を募集し、公開プレゼンテーションを実施した後に優秀なものを表彰するもので、滋賀中央信用金庫との共催により、平成 28 年度から 4 年間に亘って実施しました（令和元年度は湖東信用金庫も共催参加）。

学生は「地域の課題解決に向けて」と「研究成果の事業化」の 2 つのテーマの中から 1 テーマを選択して事業計画の提案を行い、提案の完成度・新規性・独創性・実現可能性といった観点から県内の企業や経済団体等の関係者が審査を行いました。

平成 28 年度は、滋賀県立大学の学生等を対象に実施しましたが、平成 29 年度には、対象大学を C O C + 参加 5 大学にまで拡大し、また、令和元年度には、対象校を更に環びわ湖大学・地域コンソーシアム加盟の県内 13 大学にまで拡大し、4 年間で合計 46 の事業計画が寄せられました。

アイデアプラン／ビジネスプランの作成にあたり、一部の C O C + 参加大学では、学内プレコンテストを実施したり、ゼミや研究室における学生の研究テーマと位置づけて本コンテストに取り組むなど、各校の特長を生かした多様な参加がありました。

本コンテストは教育の側面からみると「アクティブ・ラーニング」の極みにあり、経験を通じて学生が自信を身につけ大きく成長するきっかけとなりました。また、専門分野の異なる大学生が一堂に会し、事業計画の作成プロセスに積極的に参加することで、互いに刺激し合いながら、学生の自主性や起業モチベーションが醸成されました。



## (1) 平成 28 年度実施概要

1. 実施日：平成 28 年 9 月 9 日（金）
2. 場 所：ホテルニューオウミ
3. 参加大学・団体数：滋賀県立大学学生、社会人、滋賀県立大学関係者 10 団体
4. 受賞者

| 賞の種類 | 受賞者                          | テーマ                                  |
|------|------------------------------|--------------------------------------|
| 最優秀賞 | 久保瑞季氏・福田恭輔氏（滋賀県立大学学生）        | おきしま湖散歩～沖島を淡水湖ダイビングのメッカに～            |
| 優秀賞  | 増田健多氏（能登川二丁目食堂・東近江市地域おこし協力隊） | いとは Itoha プロジェクト～湖東麻織物を活用した観賞用植物ケース～ |

## 5. 概要：

平成 28 年度は、起業・創業による雇用創出を促進するため「大学によるアイデアコンテスト」を試行的に実施しました。滋賀県立大学から 10 組の学生、社会人・大学院生が参加しました。地域課題をビジネス的手法で解決する計画案をプレゼンし、審査委員長からも「感動した」等のコメントが寄せられました。学生たちは、計画立案のプロセスの中で次第にいきいきと取り組むようになり、スタッフもこのプログラムに手ごたえを感じました。

## 6. 参加団体一覧：

| 番号 | 区分                      | テーマ                |
|----|-------------------------|--------------------|
| 1  | 滋賀県立大<br>学部生            | BOOK+Cycle Bookle  |
| 2  |                         | 「八坂町プロジェクト」        |
| 3  |                         | 「癒しの菌飾」            |
| 4  |                         | 「科学っこ」             |
| 5  |                         | 「おきしま湖散歩」          |
| 6  |                         | 「日本茶の原風景を守る」       |
| 7  | 社会人および<br>滋賀県立大学<br>関係者 | 「きぐみのつみき KUMINO」   |
| 8  |                         | 「いとはーItohaープロジェクト」 |
| 9  |                         | 「matatabi」         |
| 10 |                         | 「母なるびわ湖・愛結ぶ滋賀」     |



## (2) 平成 29 年度実施概要

1. 実施日：平成 29 年 9 月 8 日（金）
2. 場所：彦根ビューホテル
3. 参加大学・団体数：6 大学・12 団体

#### 4. 受賞団体

| 賞の種類                 | 受賞団体（大学）                  | テーマ                         |
|----------------------|---------------------------|-----------------------------|
| グランプリ（県知事賞）          | 「びわ学MARUゼミ」（びわこ学院大学短期大学部） | お宝まちなみ、河五八（かごやん）！           |
| 滋賀中央信用金庫理事長賞（準グランプリ） | 「チームメタルマテリアルス」（滋賀県立大学）    | 環境に優しい燃料電池自動車に使われる触媒の開発と事業化 |

#### 5. 概要：

滋賀県立大学およびCOC+参加5大学から12団体のエントリーがあり、『お宝まちなみ、河五八（かごやん）』がグランプリに輝きました。地元の隠れた観光資源にスポットを当て、レンタルサイクルを活用したルートを開発し、観光客を招き入れることで地域を活性化させる事業計画で、地域をよく観察し、ストーリー性があり、素晴らしいプレゼンも相まって、審査員から高い評価を受けました。その他にもレベルの高い提案が数多く寄せられました。

#### 6. 参加団体一覧：

| 番号 | 大学名         | 団体名          | テーマ                            |
|----|-------------|--------------|--------------------------------|
| 1  | びわこ成蹊スポーツ大学 | 美倭湖          | 司馬遼太郎も「まさか!」と驚く グランピングキャンプの提案  |
| 2  | びわこ成蹊スポーツ大学 | 野口ゼミ         | 琵琶湖を活かしたスポーツの活性化               |
| 3  | 聖泉大学        | キャリアアップ演習    | 稲枝を活性化させよう                     |
| 4  | びわこ成蹊スポーツ大学 | ギョット         | 滋賀の魅力を濃密体験!!～滋賀ぎゅっとパークProject～ |
| 5  | 滋賀大学        | Doors        | ヨシの生活密着ビジネス～ヨシで暮らしを照らす～        |
| 6  | 滋賀県立大学      | 政所茶レン茶”ー     | 茶縁楽市～政所の再生に向けて～                |
| 7  | 成安造形大学      | ToDo         | 住みよい街彦根～シャッター街から観光地へ～          |
| 8  | びわこ学院大学     | ひこまる         | 根付かせよう!「ひこね井」                  |
| 9  | 聖泉大学        | 滋賀の魅力        | 中国人留学生から見た滋賀県の魅力               |
| 10 | びわこ学院大学     | びわ学 MARU ゼミ  | お宝まちなみ、河五八（かごやん）               |
| 11 | 滋賀県立大学      | オプティカルテクノ    | 新・可視光応答型 光触媒の事業化               |
| 12 | 滋賀県立大学      | チームメタルマテリアルス | 環境にやさしい燃料電池自動車に使われる触媒の開発と事業化   |

### (3) 平成 30 年度実施概要

1. 実施日：平成 30 年 9 月 7 日（金）
2. 場所：彦根ビューホテル
3. 参加大学・団体数：6 大学・11 団体
4. 受賞団体

| 賞の種類                 | 受賞団体（大学）                   | テーマ                       |
|----------------------|----------------------------|---------------------------|
| グランプリ（県知事賞）          | 「Earth Purifier」（滋賀県立大学）   | 新可視光応答型触媒の開発              |
| 滋賀中央信用金庫理事長賞（準グランプリ） | 「びわ学丸ゼミ 1 班」（びわこ学院大学短期大学部） | 天台星回廊                     |
| 彦根商工会議所会頭賞           | 「BGU 若鮎隊」（びわこ学院大学）         | 滋賀の若者の将来を描くプレコンセプションケアの開発 |
| 近江八幡商工会議所会頭賞         | 「石井ゼミβ」（びわこ成蹊スポーツ大学）       | 健康寿命延伸                    |
| 審査委員奨励賞              | 「廃棄物バスターズ」（滋賀県立大学）         | Hana-wa プロジェクト            |

#### 5. 概要：

滋賀県立大学およびCOC+参加5大学から11団体のエントリーがあり、『新可視光応答型触媒の開発』がグランプリに輝きました。今回のアイデアコンテストでは、昨年度に発表された他校のプレゼン内容に気づきを得て、自分たちでの独自調査を重ね、オリジナリティのある新たなアイデアとして提案した事例がありました。これはまさに大学の「アイデアプランコンテスト」の価値創造に他ならない素晴らしい取組です。

#### 6. 参加団体一覧：

| 番号 | 大学名    | 団体名                                    | テーマ                                     |
|----|--------|--|---|
| 1  | 滋賀県立大学 | 廃棄物バスターズ                               | Hana-wa プロジェクト～滋賀県の廃棄プラスチック問題を解決する～     |
| 2  | 滋賀県立大学 | Earth Purifier                         | 新可視光応答光触媒の開発                            |
| 3  | 滋賀大学   | 彦根プライド                                 | 彦根の民泊と周遊ルートによる地域経済活性化                   |
| 4  | 成安造形大学 | 成安 1 年組                                | IDEA CONTEST 夢語る街滋賀～学生と企業をつなぐプロジェクトの提案～ |
| 5  | 成安造形大学 | ありみばらード                                | アイデアコンテスト 2018～若年層に滋賀に残ってもらう必要性～        |
| 6  | 成安造形大学 | チームまるっこ                                | お～みりよく市～美大生が生産者と若者をつなぐ取組～               |
| 7  | 聖泉大学   | 聖泉 M (mama) & B (baby) student version | 若年妊婦 サポートプロジェクト～若年妊婦サポート支援の提案～          |



|    |                  |            |   |
|----|------------------|------------|---|
| 8  | びわこ学院大学          | BGU 若鮎隊    | 滋賀に住む若者の将来を描くプレコンセプションケアの開発             |
| 9  | びわこ学院大学<br>短期大学部 | びわ学丸ゼミ 1 班 | 天台星回廊～金剛界 9 星と胎蔵界 12 星～                 |
| 10 | びわこ学院大学<br>短期大学部 | びわ学丸ゼミ 2 班 | 奥永源寺の隠れ里～観光コンテンツ化を目的にした政所など 7 地区への調査提案～ |
| 11 | びわこ成蹊スポーツ大学      | 石井ゼミa      | 湖西地域スポーツテーマパーク化構想                       |
| 12 | びわこ成蹊スポーツ大学      | 石井ゼミ B     | 健康寿命延伸～ドッグスポーツに着目して～                    |



#### (4) 令和元年度実施概要

1. 実施日：令和元年9月6日（金）
2. 場所：彦根ビューホテル
3. 参加大学・団体数：6大学・11団体
4. 受賞団体

| 賞の種類        | 受賞団体（大学）                     | テーマ                      |
|-------------|------------------------------|--------------------------|
| グランプリ（県知事賞） | 「チームびわたん」（びわこ学院短大）           | めしませ、近江の姫むすび             |
| 審査委員奨励賞     | 「てら＊ぱるむす」（成安造形大学）            | 滋賀県のお寺・仏教文化を盛り上げる        |
| 審査委員奨励賞     | SUNFACE（滋賀県立大学）              | フラレンが切り開く壁で発電する時代        |
| 滋賀中央信用金庫理事賞 | 「留学生防災チーム」（聖泉大学）             | 外国人にも優しい防災システムの構築        |
| 湖東信用金庫理事長賞  | 「スポーツビジネスコース A」（びわこ成蹊スポーツ大学） | 少子化問題を解決する一スポーツ学童ビジネスの提案 |

5. 概要：

滋賀県立大学およびCOC+参加5大学から12組のエントリーがありましたが、直前の辞退で最終的に11組のプレゼンとなりました。

今回のコンテストの特徴として、少子高齢化が進む地域の課題、環境に関する課題、増加する外国人のための課題に対する解決策の提案など、暮らしの変化と共に惹起される問題解決の提案が多く、審査員からも「すぐやって欲しい」などの声が聞かれました。

なお、当日は近接する会場でビジネスマッチングフェアが行われており、企業出展者から「アイデアコンテストで発表した学生と話がしたい」との要望で学生と企業の面談が実現しました。

6. 参加団体一覧：

| 番号 | 大学名         | 団体名                     | テーマ                                   |
|----|-------------|-------------------------|---------------------------------------|
| 1  | 聖泉大学        | 聖泉大学地域ぐるっとウォーキングプロジェクト  | 歩いて知る地域と健康～学生と住民のコラボレーション～            |
| 2  | 滋賀大学        | UHR                     | 車だけじゃない街、彦根を目指して                      |
| 3  | びわこ学院大学     | チームびわたん                 | めしませ、近江の姫むすび                          |
| 4  | 滋賀県立大学      | 坂井勇太                    | 何歳になっても『できることはある』『人の役に立てる』を感じられる社会の実現 |
| 5  | 聖泉大学        | 留学生防災チーム                | 外国人にも優しい防災システムの構築                     |
| 6  | びわこ学院大学     | BGU 琵琶湖守り隊              | ノーリリースありがとう券事業の復活                     |
| 7  | 成安造形大学      | てら*ばるむす                 | 滋賀県のお寺・仏教文化を盛り上げる                     |
| 8  | びわこ学院大学     | TEAM あっがる               | 中止は簡単！！持続可能にする地域集客イベント                |
| 9  | びわこ成蹊スポーツ大学 | びわこ成蹊スポーツ大学スポーツビジネスコースA | 少子化問題を解決する～スポーツ学童ビジネスの提案～             |
| 10 | びわこ成蹊スポーツ大学 | びわこ成蹊スポーツ大学スポーツビジネスコースB | スポーツを活用した滋賀県の農業を変革するビジネスプランの提案        |
| 11 | 滋賀県立大学      | SUNFACE                 | フラレンが切り開く壁で発電する時代                     |



## (5) 参加学生の感想

- ・ 大学4回生の夏、研究室の友達に誘われて参加したアイデアコンテストをきっかけに、起業・就職への考え方が大きく変わりました。このコンテストをきっかけに自分にも何かできることはないのかと考え始めるようになりました。その後、ビジネスコンクールに参加したり、企業セミナーに参加したりして、起業や会社のことについて進んで学ぶようになりました。
- ・ 県内で起業された方や県内で働かれている方のお話を聞く中で、滋賀県にもたくさんの素晴らしい企業があることを知りました。そして、今まで以上に県内の企業へ興味をもつようになり、滋賀県での就職を意識するようになりました。さらに、自分が住んでいるこの滋賀県を活性化させようと頑張られている県内企業の方々をみて自分も力になりたいと強く思うようになりました。
- ・ 会社の仕組みや起業までのプロセスについて学びました。他にも、様々な企業を知ることができました。実際に起業された方や様々な企業の方のお話も聞き、どのような方がどのような場所でどのような考えをもって働かれているのか、また実際に起業・就職した際に困ったことや悩んだことなどを知ることができました。このような経験は、自分が就職活動をする際に大きな武器になるのではないかと考えています。

## 2. Startup Weekend 滋賀(滋賀大学)

Startup Weekend (スタートアップウィークエンド) 滋賀は、滋賀大学において平成 28 年度と 29 年度に開催された「起業の最初の3日間を体験する」起業家イベントです。参加学生たちは、チームをつくり、アイデアを考え、事業プランを開発し、顧客を見つけるなど、起業をすると誰もが向き合う始めの3日間を体験します。

参加学生は、アイデアの共有、チームの形成、ビジネス構築、プレゼンを行い、審査員による審査で最優秀チームが決まります。最終日の交流会では、3日間をともに過ごしたチームメイトや審査員たちと3日間を振り返り、お互い感じたこと、学んだことを共有しあいました。

### ○ スタートアップウィークエンド滋賀の開催概要

| 開催日                  | 参加者数 | チーム名・グランプリ受賞テーマ                   |
|----------------------|------|-----------------------------------|
| 平成 28 年 12 月 16~18 日 | 25 人 | 「チーム・ピワイチ」—琵琶湖一周サイクリングをする人のための保険— |
| 平成 29 年 12 月 1~3 日   | 18 人 | チーム「地産地生」—地元企業と学生のつながる仕組み—        |



### 3. インバウンド×アントレプレナー講演会

---

平成 28 年 5 月 27 日（金）、彦根商工会議所においてインバウンド×アントレプレナー講演会を開催しました。講師には、（株）フリープラスの須田健太郎氏を招き、平成 19 年の創業時の話やリーマンショックによる経営破たんの危機を乗り越えた話などについて伺いました。起業家精神を大いに刺激する講演に学生も熱心に聞き入っていました。





# 第7章

## その他の取組

# 1. COC+ 成果報告フォーラム

COC+事業における事業進捗や取組成果を共有・周知するとともに、その中でみえてきた課題等を含めて、若者の地元定着に向けた課題を浮かび上げ、COC+事業を更に加速させることを目的に毎年度、成果報告フォーラムを開催しました。

成果報告フォーラムでは、基調講演やパネルディスカッションを通じて、魅力ある就業先や雇用の創出を通じた地域活性化に大学や企業がどのように取り組むかを考えるとともに、県内企業に就職した卒業生や中期インターンシップの参加学生をパネリストとして招聘し、自身の体験を通じて県内企業の魅力を在學生に向けて発信しました。

## (1) COC+キックオフ記念フォーラム開催概要

1. 日時： 平成 28 年 3 月 6 日（日） 13：00～16：00
2. 会場： ピアザ淡海「大会議室」（大津市におの浜 1-1-20）
3. 参加者：86 人
4. 内容
  - ①基調講演「人財力で滋賀を元気に！」  
講師：大阪観光局理事長 溝畑宏氏
  - ②パネルディスカッション「若者が根付き輝く滋賀の創生に向けて」  
コーディネーター：加藤賢治氏（成安造形大学社会貢献部門主査）  
コメンテーター：澤田史朗氏（総務省自治財政局財務調査課長）  
・ 池永肇恵氏（滋賀県副知事）  
パネリスト：岩田康子氏（有限会社ブルーベリーフィールズ紀伊國屋代表取締役社長）  
川戸良幸氏（琵琶湖汽船株式会社代表取締役社長）  
藤岡建二氏（美容室「pocapoca」経営）  
寄川弥生氏（株式会社ワダケン勤務）



## (2) 第1回成果報告フォーラム開催概要

1. 日時： 平成29年4月24日(月) 13:30~16:00
2. 会場： コラボしが21・3階大会議室(大津市打出浜2-1)
3. 参加者：126人
4. 内容

①基調講演「採用で勝つコツ～どんな小さな企業でも人が採用できるセオリー～」

講師：株式会社 HONKI 常務取締役 久保田暁氏

②COC/COC+事業成果報告

③パネルディスカッション「滋賀で働き輝くために～地元で頑張る卒業生と語る～」

モデレータ：田口真太郎氏(株式会社まっせ)

コメンテーター：藤田義嗣氏(日本ソフト開発株式会社)

パネリスト：世継武志氏(高橋金属株式会社)

岡達也氏(安全索道株式会社)

種田由里氏(株式会社千成亭)



## (3) 第2回成果報告フォーラム開催概要

1. 日時： 平成30年4月17日(火) 13:30~16:30
2. 会場： 滋賀県立大学 交流センターホール
3. 参加者：148人
4. 内容

①COC/COC+事業成果報告

②基調講演「学生の心に響く採用活動とは」

講師：国立大学法人神戸大学大学院経営学研究科 准教授 服部泰宏氏

③パネルディスカッション「中期インターンシップによって得られたこと、学んだこと」

司会・進行：倉茂好匡(滋賀県立大学理事・副学長)

コメンテーター：服部泰宏氏

パネリスト：曾根仁郎氏(日本ソフト開発株式会社)

田中愛子氏(島津産機システムズ株式会社)

奈佐綱一郎さん(滋賀県立大学工学部  
機械システム工学科4年)

田嶋待子さん(滋賀大学経済学部会計  
情報学科3年)



#### (4) 第3回成果報告フォーラム開催概要

1. 日時： 令和元年6月23日（日）13：30～16：30
2. 会場： コラボしが21・3階大会議室（大津市打出浜2-1）
3. 参加者：89人
4. 内容
  - ①COC+事業成果報告
  - ②基調講演「お金をかけずに採用で勝つ 中小企業の成功モデルに学ぶ」  
講師：宮川バネ工業株式会社代表取締役 宮川草平氏
  - ③パネルディスカッション「企業と学生がツナガル場づくり」  
司会・進行：滋賀県立大学地域共生センター 上田洋平講師  
コメンテーター：宮川草平氏  
パネリスト：乗原絢圭氏（株式会社千成亭風土）  
藤野智成氏（株式会社オーケーエム）  
竹林竜一氏（株式会社 Re-birth 代表取締役）  
奥手大気さん（滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科4年）  
筈井円香さん（滋賀県立大学卒業生）  
西田朱里さん（滋賀県立大学卒業生）
5. 後援 大津市

#### (5) 参加者の感想・意見・要望

- ・県内にどのような企業がどれくらいあるのか等、学生さん達に繰り返し周知させていただきたい。
- ・学生が卒業までに県内のインターンシップに行く流れをつくってほしい。
- ・企業アピールする機会をつくっていただきたい。
- ・地元の企業との接点をできるだけ増やしてほしい。
- ・各企業の風土や文化をある程度理解したうえで就職指導を実施してもらいたい。
- ・「ジョブ交座」のような、より気軽に様々な意見交換のできる場が望ましい。
- ・就職支援に当たって、学生に対する態度や方法について改めて考える機会になった。





## 2. 外部評価の実施

COC+事業の実施に当たっては、滋賀県立大学の定例会議や6大学連携部会の場において定期的な自己評価を実施したほか、事業の進捗や成果について第三者による客観的な評価を行うため、外部のメンバーで構成される外部評価委員会を設置し、毎年度開催しました。

COC+事業に係る自主評価および外部評価を幅広く実施することにより、PDCAサイクルを有効に機能させることが可能となり、事業を効率的かつ効果的に実施することができました。

### (1) 概要

外部評価委員会は、学識経験者や、企業、NPOの代表者等による委員によって構成され、COC+事業の取組に関して、第三者による客観的な評価を行うために設置されました。

外部評価委員の構成は以下のとおりです（令和2年3月現在）。

| 委員名     | 所属               | 役職      | 備考   |
|---------|------------------|---------|------|
| 金井 萬造氏  | 立命館大学            | 客員教授    | 委員長  |
| 宮野 道雄氏  | 大阪市立大学           | 学長補佐    | 副委員長 |
| 東 清信氏   | びわ湖放送株式会社        | 代表取締役社長 |      |
| 志賀 文昭氏  | 株式会社しがぎん経済文化センター | 主席研究員   |      |
| 藤田 義嗣氏  | 日本ソフト開発株式会社      | 代表取締役会長 |      |
| 池田 喜久子氏 | 有限会社池田牧場         | 専務取締役   |      |
| 村上 悟氏   | 特定非営利活動法人碧いびわ湖   | 代表理事    |      |

委員長には立命館大学客員教授の金井萬造氏が選出され、COC+事業全体の進捗状況や各年度の実績について、事業担当者が説明を行い、その後、各委員から、事業に関する評価や改善の提案など、忌憚のない意見がありました。また、滋賀県立大学が平成25年度から29年度にかけて実施した大学COC事業の成果をCOC+として県域に波及させる意義や、教員や学生が地域（現場）に飛び出していくことの重要性、インターンシップにおける産業界とのさらなる連携や広報戦略の工夫、ポストCOC+事業のあり方等、事業推進に向けて多くの助言を受けました。



令和元年度の委員会では、COC+事業で新設したソーシャル・アントレプレナーコースを修了した滋賀県立大学の学生が出席し、外部評価委員と意見交換を行いました。

した。委員からは本事業で得られた成果をしっかりと受け継ぐとともに県内のCOC+参加大学以外の大学にも情報共有し、取組の拡大を期待する旨の意見をいただきました。

## (2) 各年度の開催状況

| 年度  | 実施日          | 出席委員数 |
|-----|--------------|-------|
| H28 | 平成29年3月8日(水) | 4人    |
| H29 | 平成30年3月9日(金) | 6人    |
| H30 | 平成31年3月8日(金) | 7人    |
| R1  | 令和2年3月4日(水)  | 5人    |

## (3) 外部評価委員会における主な意見（令和元年度委員会を中心に）

- ・人材育成は1年や2年ではできない。10年、20年かけて初めて評価される。「継続は力なり」の精神で地道に取り組んでいただきたい。大学運営の根底に「人材育成」の「精神」を据えて引き続き頑張ってください。
- ・大学と企業の「間」を埋める「応援団」が不可欠である。卒業した学生も巻き込んで、起業を後押しするなどの工夫もしてほしい。
- ・教員が地域に出ていくことで、自分たちの研究に広がりが出てくると感じるようにすることが、学生にとっての刺激になり、学生も地域に出ていき、好循環が生まれる。
- ・インターンシップを指導するスタッフには、大学の授業では学べないようなこと（この学生がどこの会社に行ってもインターンシップをして良かったと思えるような人間力）をインターンシップで教えてほしい。社内でもインターンシップ生を就職させようと思わなくて良いといっている。夢や可能性や人間観といった数値で測ることのできない無形の教育をすることが使命だと思っている。
- ・以前と違って、今は起業するには、ベンチャーキャピタルなど良い環境であると思われる。起業したいという意識をもった学生が仲間を連れてくる仕組みが必要ではないか。
- ・中期インターンシップでは、「就職＝ゴール」ではなく、入社後の企業への定着についても意識して取り組んでほしい。
- ・COC+6大学の連携が強固になったことが大きな成果である。加えて、COC+6大学から環びわ湖大学・地域コンソーシアム13大学に拡大する仕組みを是非実現してほしい。これまでに構築した仕組みを継続して全国42の取組のモデルになってほしい。

---

平成 27 年度～令和元年度

びわ湖ナレッジ・commons+ ～地と知で拓く滋賀の創生～

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」成果報告書

令和 2 年 3 月発行

企画・編集・発行

公立大学法人滋賀県立大学地域共生センターCOC+推進室

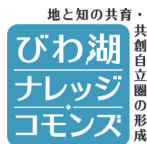
印刷・製本

近江印刷株式会社

本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製、転載することは禁止されています。



Center Of Community



**滋賀大学(地域連携教育推進室)**

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1丁目1-1 電話 0749-27-1348

**成安造形大学(地域連携推進センター)**

〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東4-3-1 電話 077-574-2118

**聖泉大学(地域連携交流センター)**

〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町720番地 電話 **0749-43-7523**

**びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部(外部連携研究センター・外部連携研究支援課)**

〒527-8533 滋賀県東近江市布施町29 電話 0748-22-3388

**びわこ成蹊スポーツ大学(総合企画部企画広報課)**

〒520-0503 滋賀県大津市北比良1204 電話 077-596-8421



**滋賀県立大学**

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

**地域共生センター COC + 推進室**

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

TEL 0749-28-8605

FAX 0749-28-8473

メール plus@office.usp.ac.jp

<https://www.cocplus-biwako.net/>

文部科学省  
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」成果報告書